

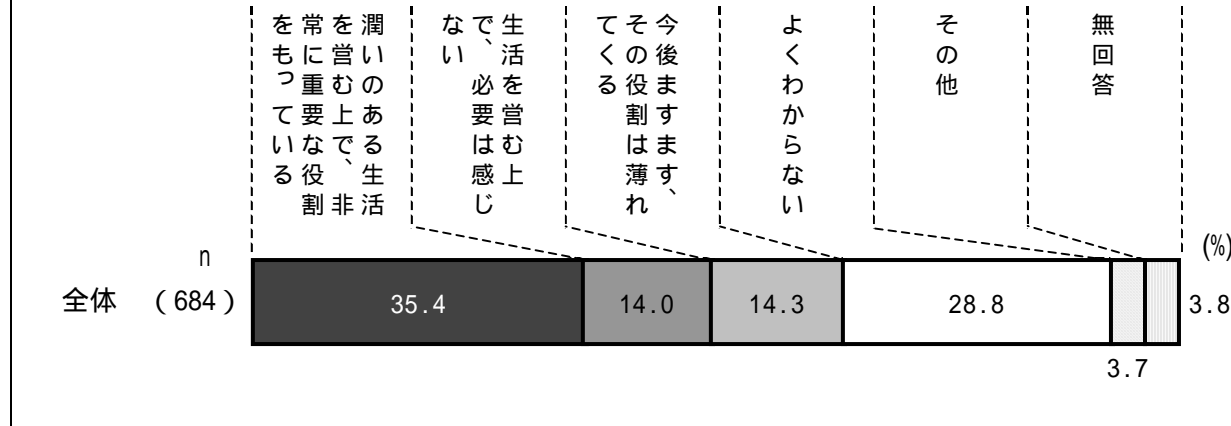
6 コミュニティ

(1) 自治会等の地域コミュニティの考え方

問10 自治会等の地域コミュニティについて、あなたはどのように考えていますか。

{ n = 684 }

< 図6-1：自治会等の地域コミュニティの考え方 >



【全体】

自治会等の地域コミュニティの考え方については、「潤いのある生活を営む上で、非常に重要な役割をもっている」が35.4%で最も高く、「よくわからない」が28.8%で続いている。

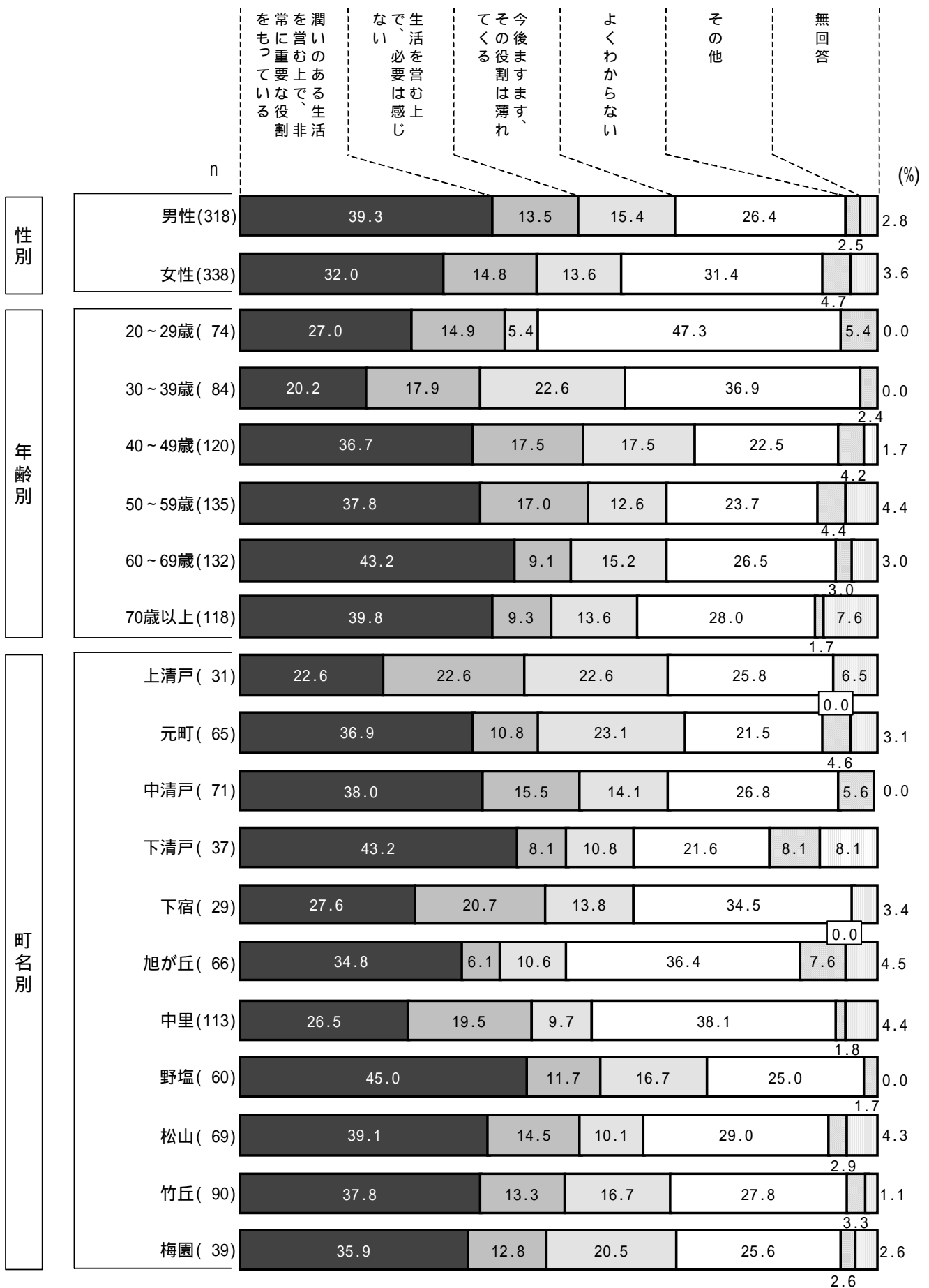
【性別・年齢別・町名別】

性別で見ると、「潤いのある生活を営む上で、非常に重要な役割をもっている」が男性(39.3%)、女性(32.0%)となっており、男性が7.3ポイント上回っている。他方、「よくわからない」が女性(31.4%)、男性(26.4%)となっており、女性が5.0ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「潤いのある生活を営む上で、非常に重要な役割をもっている」は60歳代が43.2%と他の年齢層と比較して高くなっている。また、「よくわからない」は20歳代、30歳代が高く、それぞれ47.3%、36.9%となっている。

町名別で見ると、「潤いのある生活を営む上で、非常に重要な役割をもっている」は野塩、下清戸において数値が高く、それぞれ45.0%、43.2%となっている。また、「よくわからない」は中里が38.1%となっており他の町名と比較して高くなっている。

< 図 6 - 2 : 性別・年齢別・町名別 >

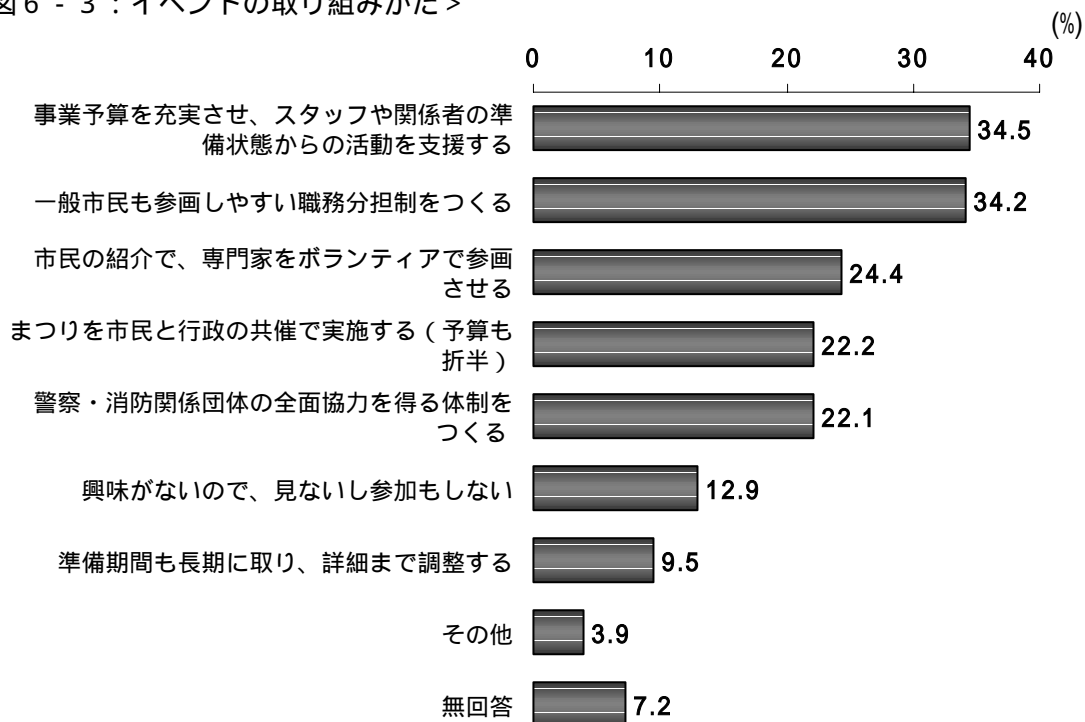


(2) イベントの取り組みかた

問11 市では、いくつかのイベント(まつり)を企画・運営していますが、市民の皆さんが参画してまつりを充実させるには、どのような取り組みをすればよいか、次の中から2つまでお答えください。

{ n = 684 }

< 図6-3 : イベントの取り組みかた >



【全体】

イベントの取り組みかたについては、「事業予算を充実させ、スタッフや関係者の準備状態からの活動を支援する」が34.5%と最も高く、次いで「一般市民も参画しやすい職務分担制をつくる」が34.2%、「市民の紹介で、専門家をボランティアで参画させる」が24.4%と続いている。

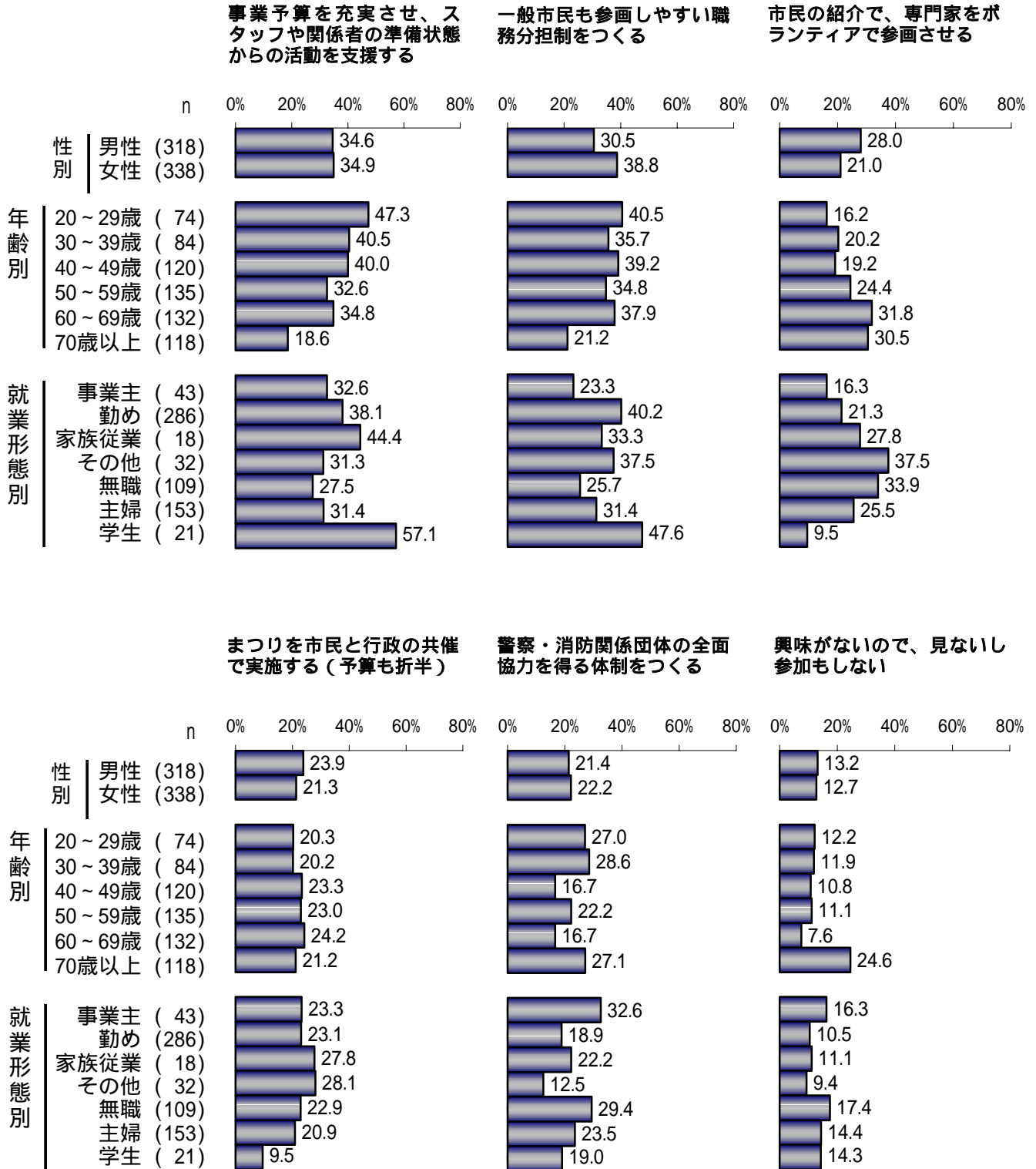
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「市民の紹介で、専門家をボランティアで参画させる」が男性(28.0%)、女性(21.0%)となっており、男性が7.0ポイント上回っている。他方、「一般市民も参画しやすい職務分担制をつくる」が女性(38.8%)、男性(30.5%)となっており、女性が8.3ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「事業予算を充実させ、スタッフや関係者の準備状態からの活動を支援する」は20歳代が最も高く47.3%となっているが、年齢が上がるほど漸減する傾向がある。また、「興味が無いので、見ないし参加もしない」は70歳代が24.6%と他の年齢層と比較して高くなっている。

就業形態別で見ると、学生は「事業予算を充実させ、スタッフや関係者の準備状態からの活動を支援する」、「一般市民も参画しやすい職務分担制をつくる」でそれぞれ 57.1%、47.6%と他の就業形態よりも高くなっている。また、「警察・消防関係団体の全面協力を得る体制をつくる」は事業主で 32.6%となっており高い数値を示している。

< 図 6 - 4 : 性別・年齢別・就業形態別：上位 6 項目 >



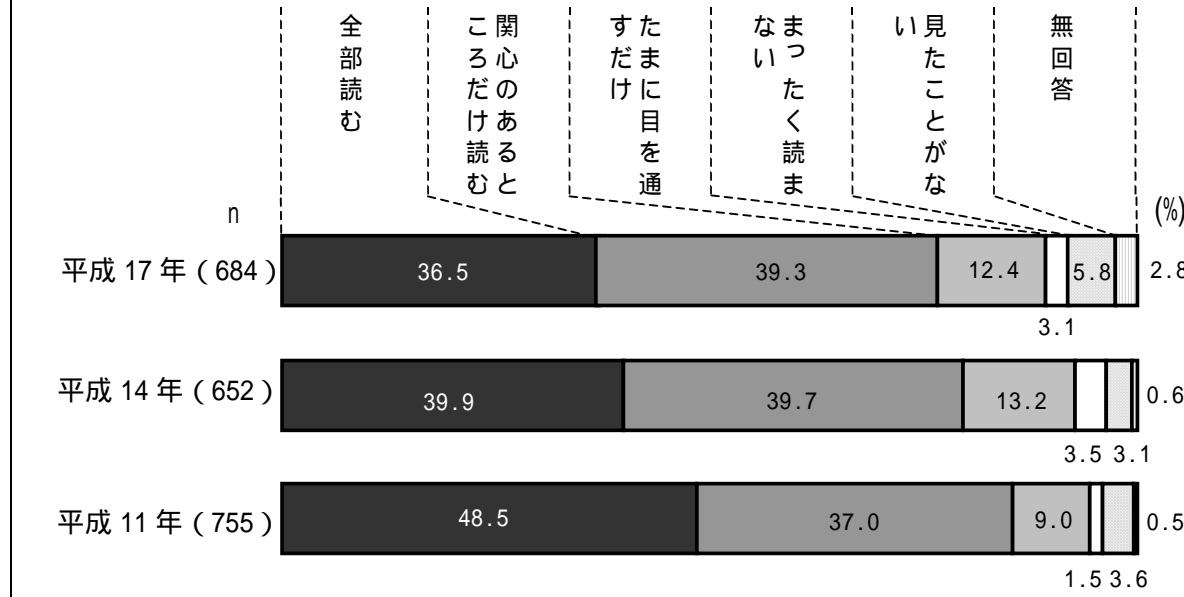
7 広報

(1) 「市報きよせ」の閲読度

問12 市では「市報きよせ」を毎月2回、新聞折り込み等で皆様のご家庭にお届けしていますが、あなたは、どの程度お読みになっていますか。

[n = 684]

< 図7 - 1 : 市報きよせの閲読度・経年比較 >



【全体・経年比較】

「市報きよせ」の閲読度は、「関心のあるところだけ読む」が39.3%と最も高く、「全部読む」が36.5%と続いている。これら両者を合算した『随時読んでいる』人が75.8%と、「まったく読まない」及び「見たことがない」を合算した『読んでいない』人の8.9%を大きく上回っている。

前々回調査(平成11年)・前回調査(平成14年)と比較すると、年が経つに従って『随時読んでいる』人が漸減する傾向が認められる。

【性別・年齢別・就業形態別・居住年数別】

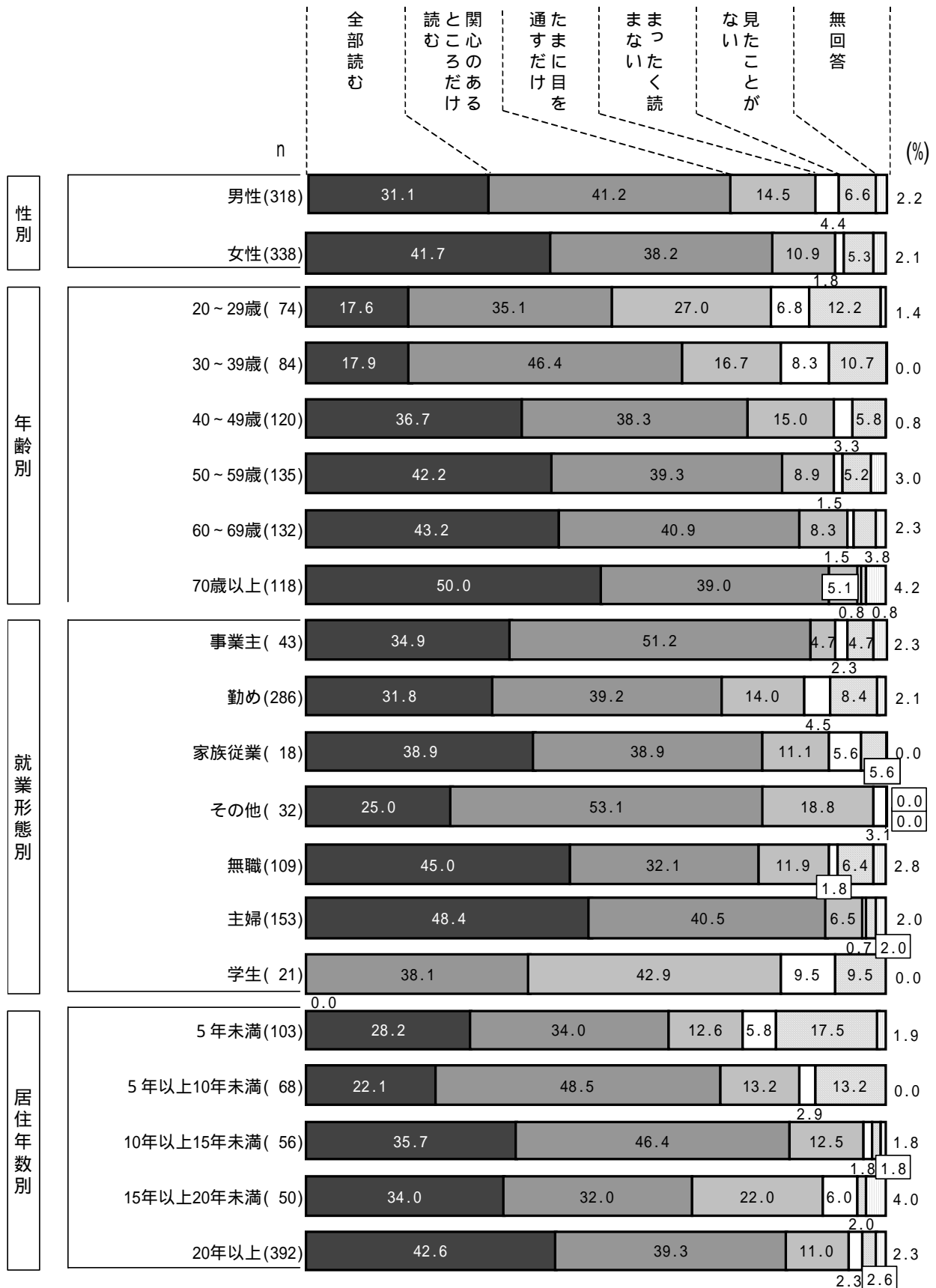
性別で見ると、「全部読む」が女性(41.7%)、男性(31.1%)となっており、女性が10.6ポイント上回っている。また、『随時読んでいる』人も同様に女性が7.6ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「全部読む」は70歳以上が50.0%と最も高くなっている。『随時読んでいる』人は年齢が上がるほど漸増する傾向になっている。他方、『読んでいない』人は20歳代、30歳代で数値が高く、それぞれ19.0%となっている。

就業形態別で見ると、学生は「全部読む」が0.0%と他の就業形態と比較して低く、「たまに目を通すだけ」が42.9%と他と比べ高くなっている。また、『随時読んでいる』人は、主婦・事業主がそれぞれ88.9%・86.1%と他の就業形態と比較して高くなっている。

居住年数別でみると、「全部読む」は20年以上が42.6%と最も高くなっている。また、「見たことがない」は5年未満が17.5%と他の居住年数と比較して高くなっている。

< 図7 - 2 : 性別・年齢別・就業形態別・居住年数別 >

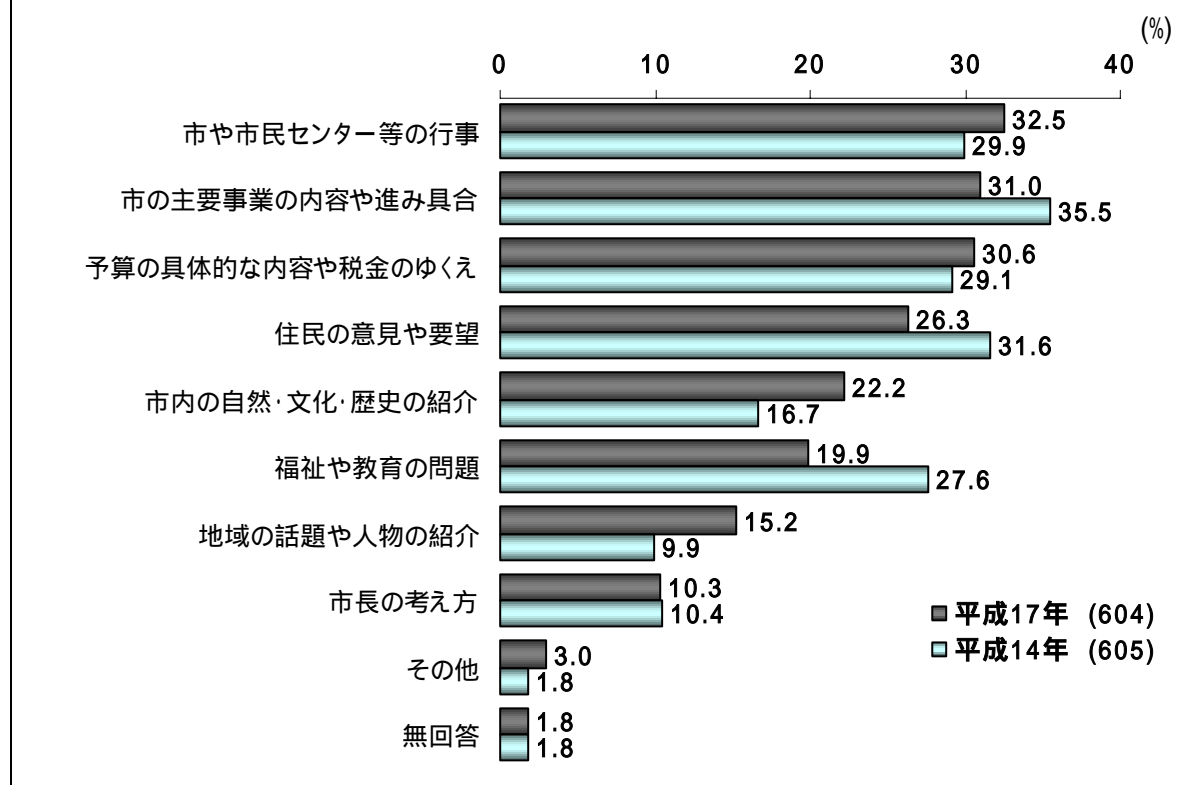


(1 - 1) 「市報きよせ」に取り上げて欲しい記事

S Q 1 問 1 2 で「全部読む」、「関心のあるところだけ読む」、「たまに目を通すだけ」とお答えの方にうかがいます。「市報きよせ」に取り上げて欲しい記事はどのようなものですか、次の中から 2 つまでお答えください。

{ n = 604 }

< 図 7 - 3 : 「市報きよせ」に取り上げて欲しい記事・経年比較 >



【全体・経年比較】

「市報きよせ」に取り上げて欲しい記事としては、「市や市民センター等の行事」が 32.5% と最も高く、「市の主要事業の内容や進み具合」が 31.0%、「予算の具体的な内容や税金のゆくえ」が 30.6%、「住民の意見や要望」が 26.3% と続いている。

前回調査（平成 14 年）と比較すると、「市内の自然・文化・歴史の紹介」は 5.5 ポイント、「地域の話や人物の紹介」が 5.3 ポイント増加している。他方、「福祉や教育の問題」が 7.7 ポイント減少している。

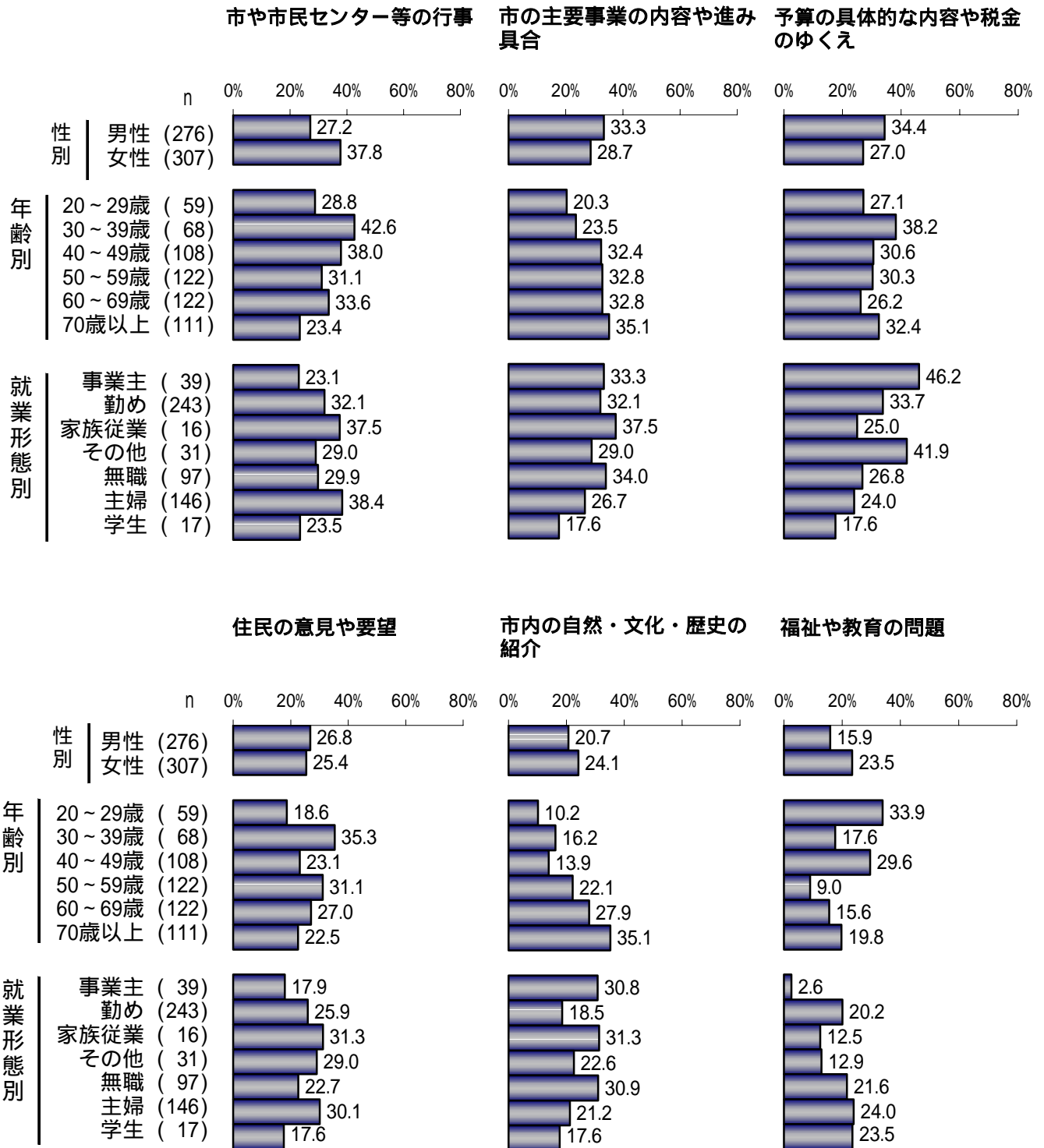
【性別・年齢別・就業形態別】

性別でみると、「予算の具体的な内容や税金のゆくえ」が男性（34.4%）、女性（27.0%）となっており、男性が 7.4 ポイント上回っている。他方、「市や市民センター等の行事」は女性（37.8%）、男性（27.2%）となっており、女性が 10.6 ポイント上回っている。

年齢別でみると、「市や市民センター等の行事」は 30 歳代が 42.6%、「市内の自然・文化・歴史の紹介」は 70 歳以上が 35.1% と他の年齢層と比較して高くなっている。

就業形態別で見ると、「予算の具体的な内容や税金のゆくえ」は事業主が46.2%と他の就業形態と比較して高くなっている。

< 図7 - 4 : 性別・年齢別・就業形態別 >

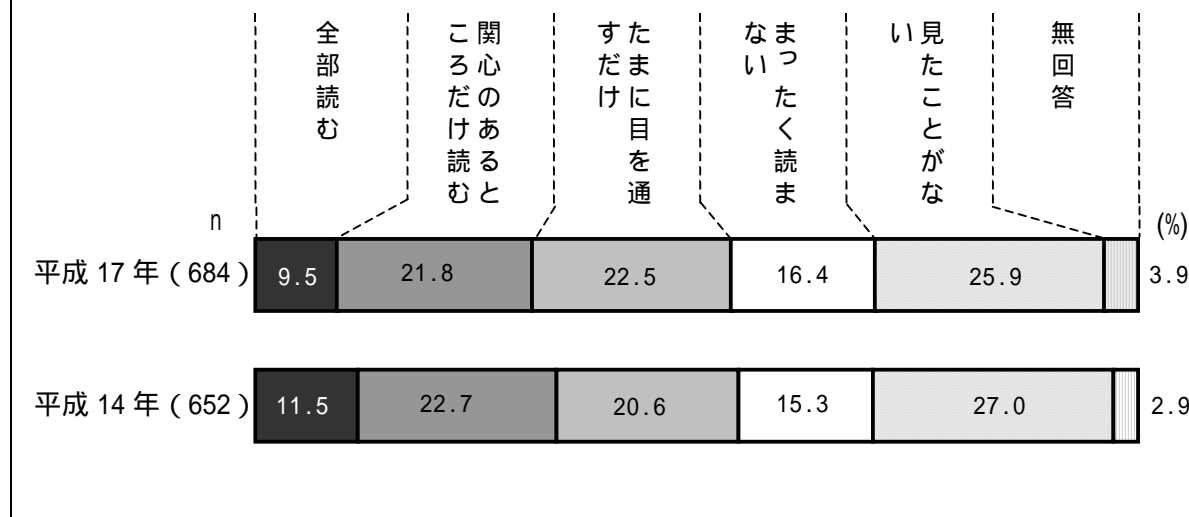


(2) 「Ms . スクエア」の閲読度

問13 市では女性広報誌「Ms . スクエア」を年3回、新聞折り込み等で皆さんのご家庭にお届けしていますが、あなたは、どの程度お読みになっていますか。

[n = 684]

< 図7 - 5 : 「Ms . スクエア」の閲読度・経年比較 >



【全体・経年比較】

「Ms . スクエア」の閲読度では、「全部読む」が9.5%で、「関心のあるところだけ読む」が21.8%である。これら両者を合算すると、『随時読んでいる』人は31.3%となる。また、「見たことがない」が25.9%となっており比較的多くなっている。

前回調査（平成14年）と比較すると、『随時読んでいる』が若干減少したものの、特に大きな差異はみられない。

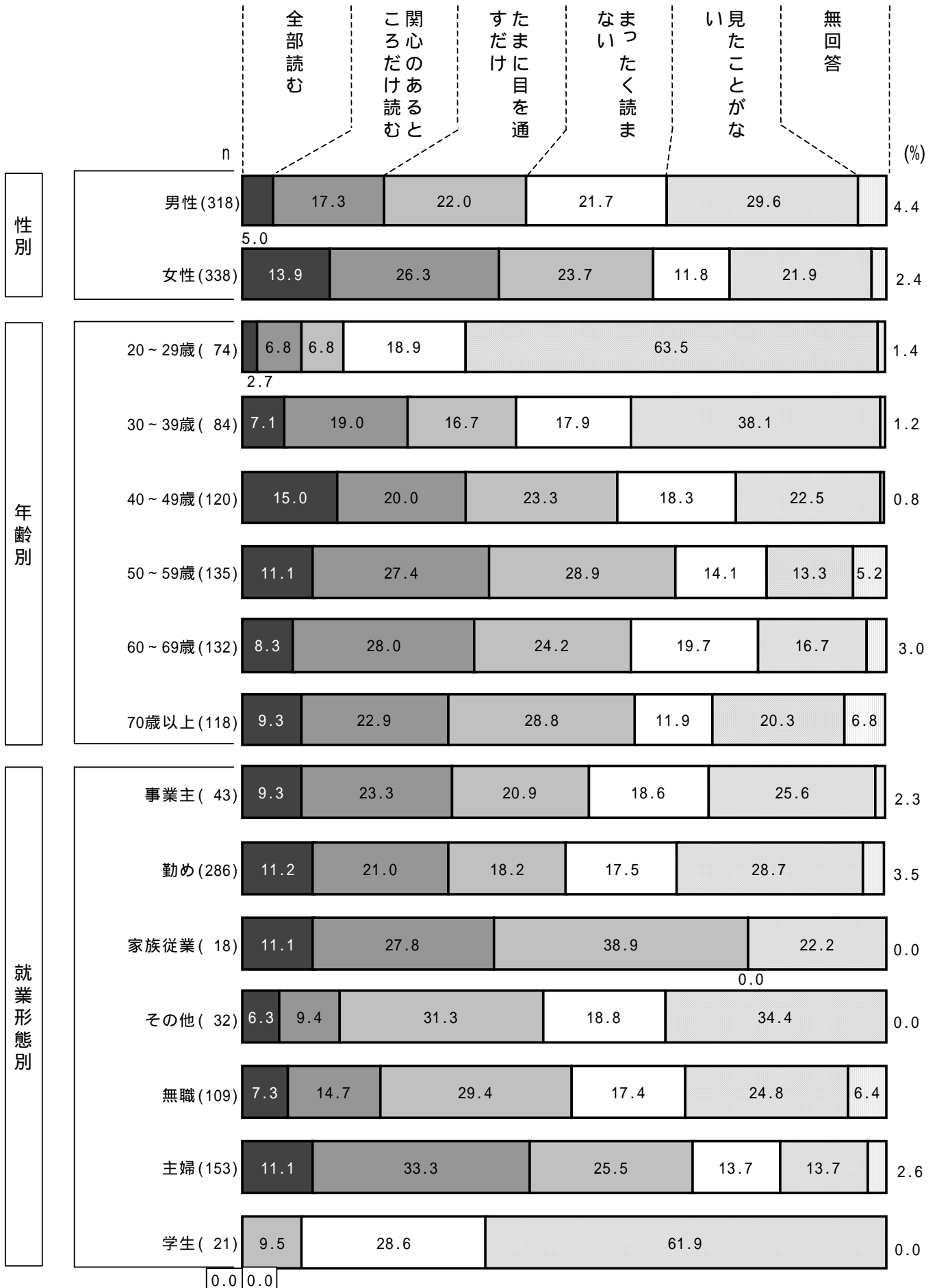
【性別・年齢別・就業形態別】

性別でみると、「全部読む」が男性（5.0%）、女性（13.9%）となっており、女性が8.9ポイント上回っている。また、『随時読んでいる』人も同様に女性が17.9ポイント上回っている。

年齢別でみると、「全部読む」は40歳代が15.0%と最も高くなっている。他方、「見たことがない」は20歳代が63.5%と最も高く、そのことを反映してか『読んでいない』人は82.4%となっている。

就業形態別でみると、『随時読んでいる』人は主婦が44.4%と最も数値が高くなっている。他方、『読んでいない』人は学生が最も高く90.5%となっている。

< 図 7 - 6 : 性別・年齢別・就業形態別 >

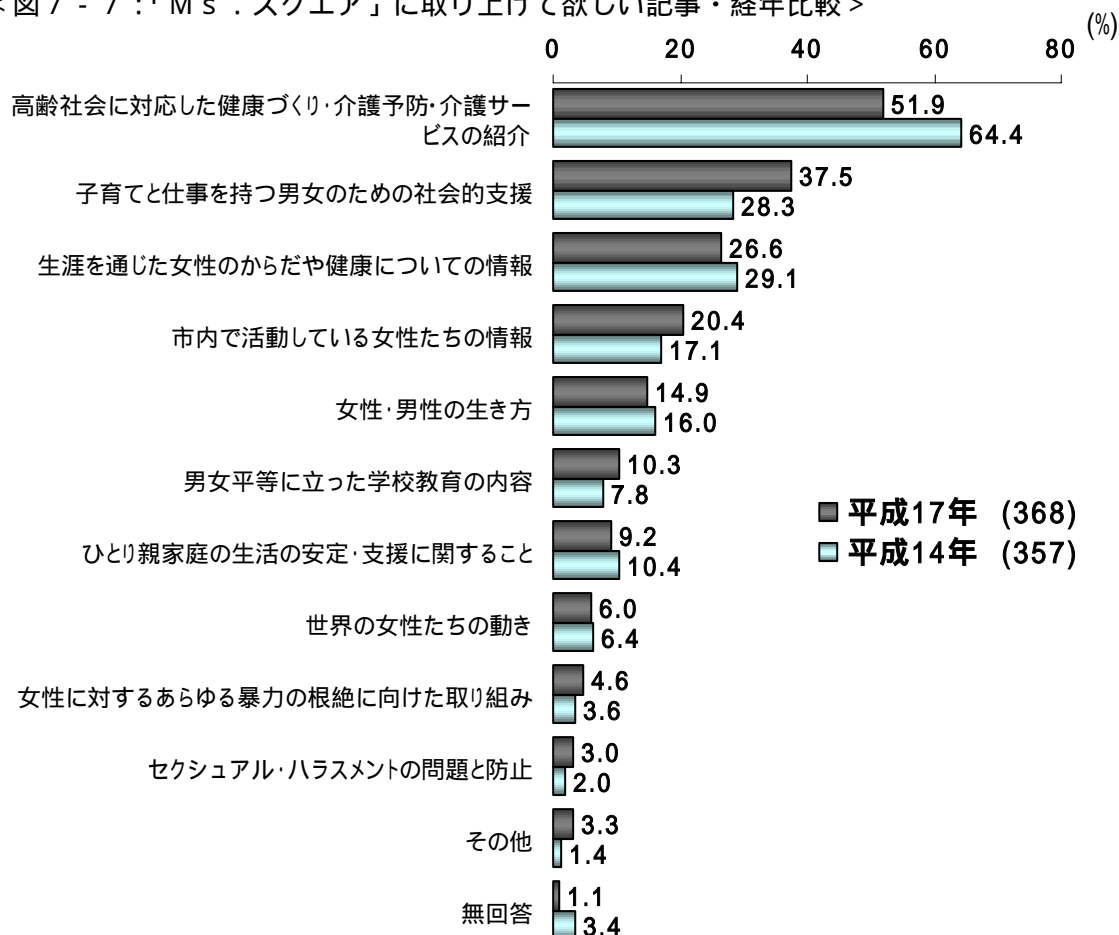


(2 - 1) 「 M s . スクエア 」 に取り上げて欲しい記事

S Q 1 問 1 3 で 「 全部読む 」 「 関心のあるところだけ読む 」 「 たまに目を通すだけ 」 とお答えの方にうかがいます。「 M s (ミズ) スクエア 」 に取り上げて欲しい記事はどのようなものですか、次の中から 2 つまでお答えください。

[n = 368]

< 図 7 - 7 : 「 M s . スクエア 」 に取り上げて欲しい記事・経年比較 >



【全体・経年比較】

「 M s . スクエア 」 に取り上げて欲しい記事では、「高齢社会に対応した健康づくり・介護予防・介護サービスの紹介」が 51.9% と最も高く、「子育てと仕事を持つ男女のための社会的支援」が 37.5%、「生涯を通じた女性のからだや健康についての情報」が 26.6% と続いている。

前回調査（平成 14 年）と比較すると、「子育てと仕事を持つ男女のための社会的支援」が 9.2 ポイント増加している。他方、「高齢社会に対応した健康づくり・介護予防・介護サービスの紹介」が 12.5 ポイント減少している。

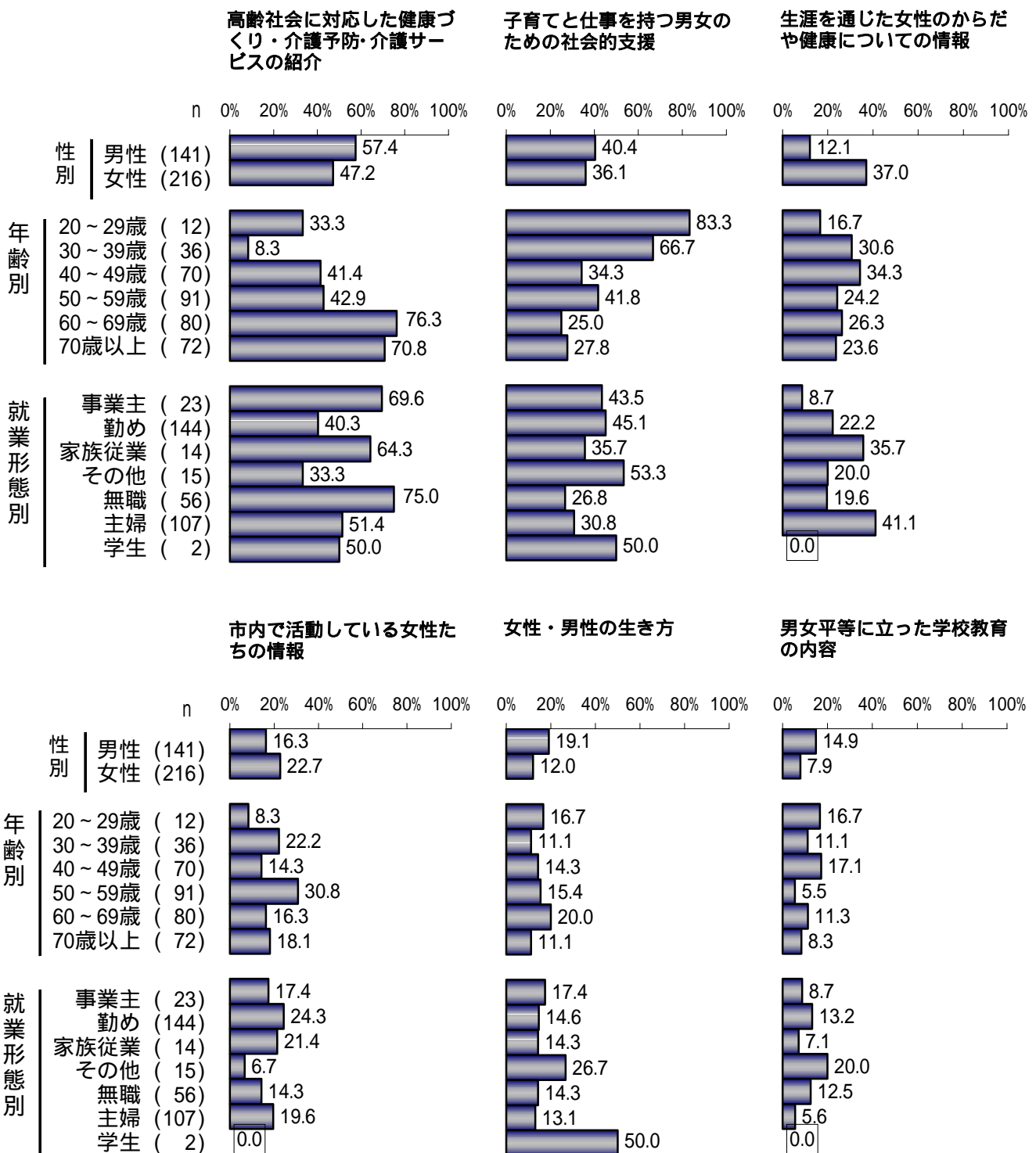
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「高齢社会に対応した健康づくり・介護予防・介護サービスの紹介」が男性（57.4%）女性（47.2%）となっており、男性が 10.2 ポイント上回っている。また、「女性・男性の生き方」が男性（19.1%）女性（12.0%）となっており、男性が 7.1 ポイント上回っている。他方、「生涯を通じた女性のからだや健康についての情報」が女性（37.0%）男性（12.1%）となっており、女性が 24.9 ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「高齢社会に対応した健康づくり・介護予防・介護サービスの紹介」は60歳代、70歳以上が他の年齢層と比較して高く、それぞれ76.3%、70.8%となっている。また、「子育てと仕事を持つ男女のための社会的支援」は20歳代が83.3%と最も高くなっている。

就業形態別で見ると、「生涯を通じた女性のからだや健康についての情報」は主婦が41.1%と最も高く、他の就業形態より高くなっている。

< 図7 - 8 : 性別・年齢別・就業形態別：上位6項目 >

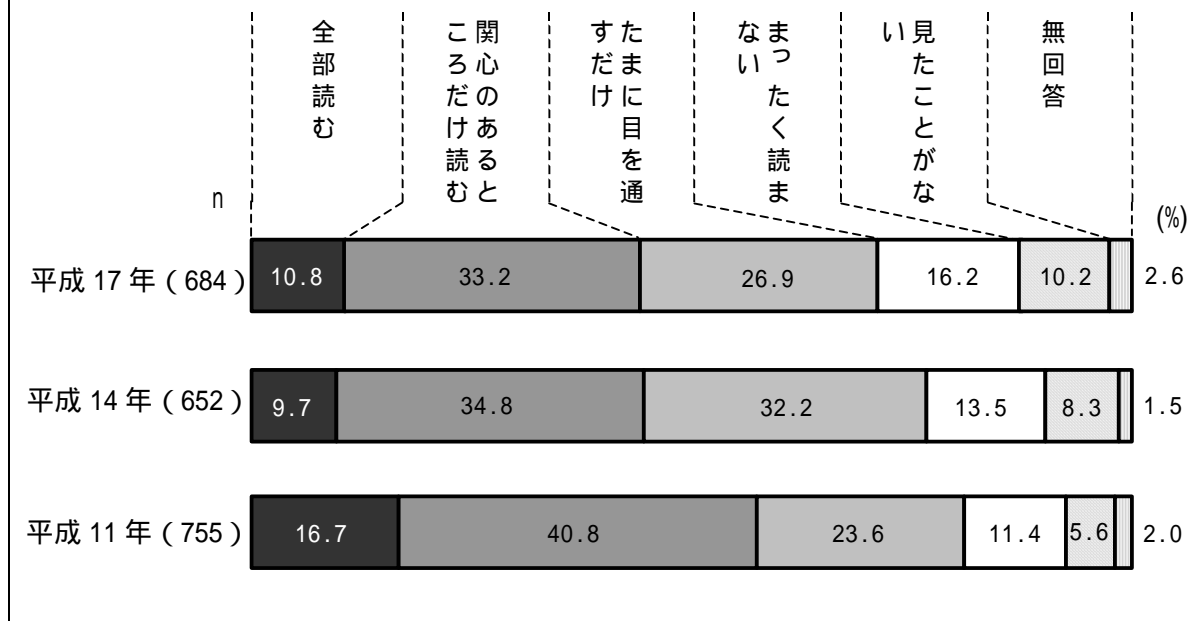


(3) 「きよせ市議会だより」の閲読度

問14 市議会では「きよせ市議会だより」を年4回、新聞折り込み等で皆様のご家庭にお届けしていますが、あなたはどの程度お読みになっていますか。

[n = 684]

< 図7-9 : 「きよせ市議会だより」の閲読度・経年比較 >



【全体・経年比較】

「きよせ市議会だより」の閲読度では、「全部読む」が10.8%で、「関心のあるところだけ読む」が33.2%である。これら両者を合算すると、『随時読んでいる』人は44.0%となる。また、「たまに目を通すだけ」が26.9%となっている。

経年比較でみると、前回調査（平成14年）と比べると『随時読んでいる』人の割合に大きな変化はみられない。他方、前々回調査（平成11年）から比較すると、「見たことがない」が年を経つに従って漸増している。

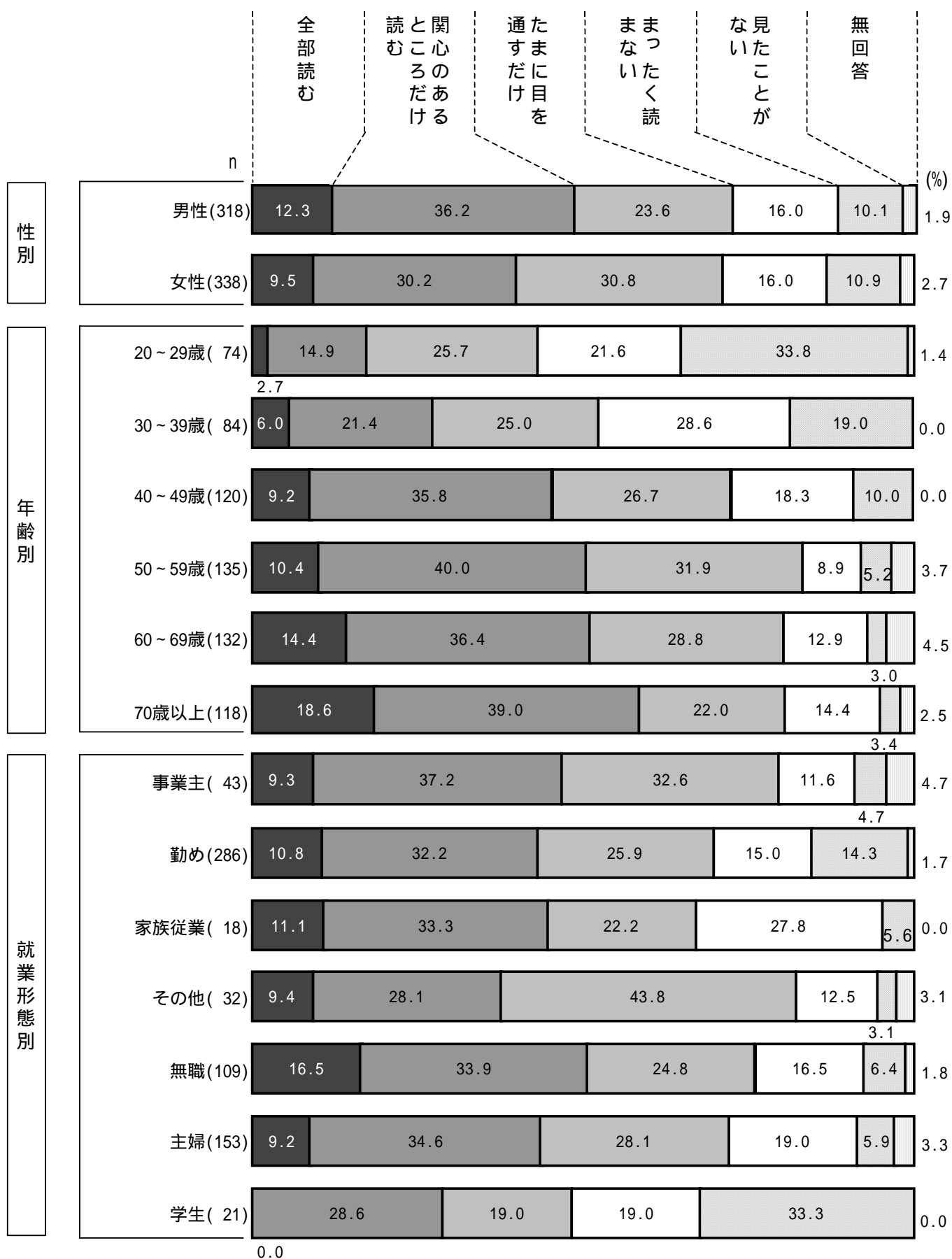
【性別・年齢別・就業形態別】

性別でみると、「関心のあるところだけ読む」が男性（36.2%）、女性（30.2%）となっており、男性が6.0ポイント上回っている。また、『随時読んでいる』人も同様に男性が8.8ポイント上回っている。

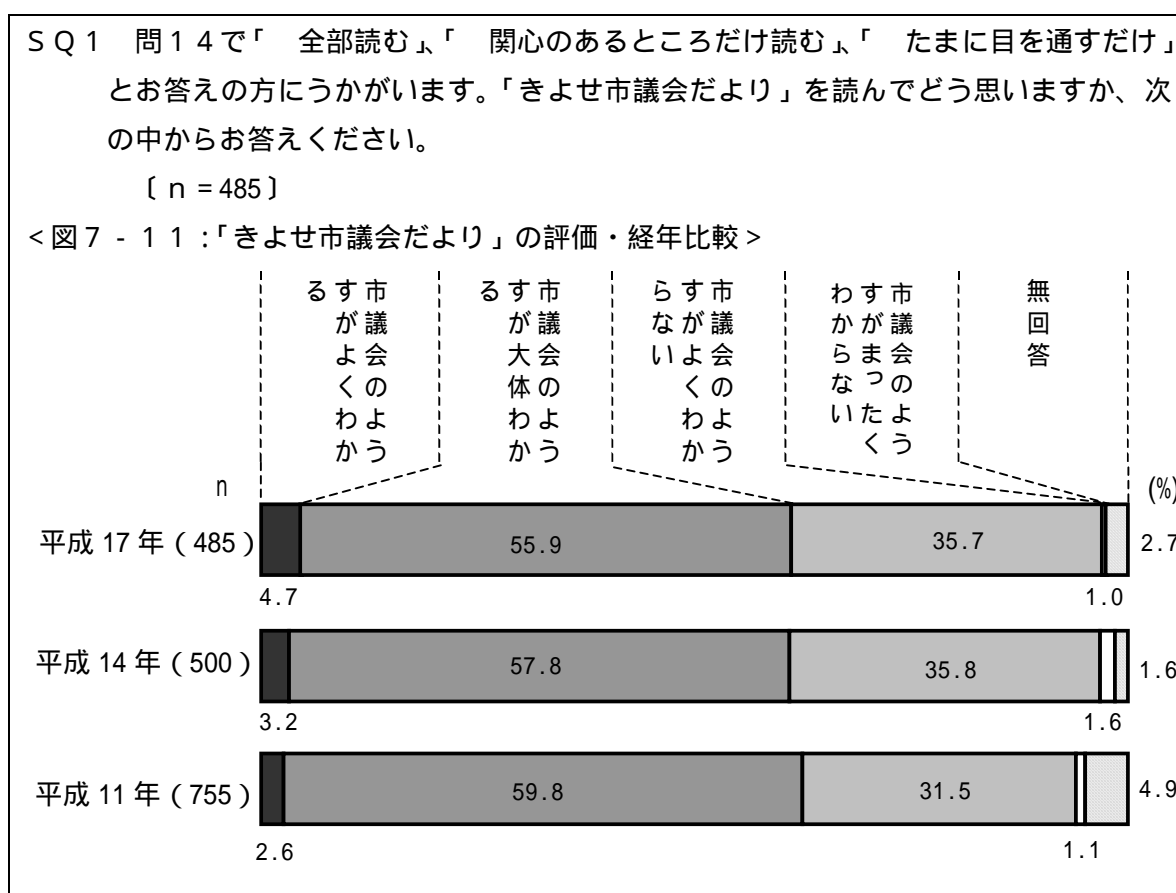
年齢別でみると、「全部読む」は70歳以上が18.6%と最も高く、年齢が下がるほど漸減する傾向になっている。また、『随時読んでいる』人も70歳以上が57.6%と数値が高く、年齢が下がるほど漸減する傾向になっている。なお、20歳代は「見たことがない」が33.8%と最も高くなっている。

就業形態別でみると、『随時読んでいる』人は無職が50.4%と最も高くなっている。また、学生は「見たことがない」が33.3%と最も高くなっている。

< 図 7 - 1 0 : 性別・年齢別・就業形態別 >



(3-1) 「きよせ市議会だより」の評価



【全体・経年比較】

「きよせ市議会だより」の評価としては、「市議会のようによくわかる」が4.7%で、「市議会のように大体わかる」が55.9%である。これら両者を合算すると、『ようすがわかる』人は60.6%となる。一方、「市議会のようによくわからない」が35.7%で、「市議会のようにまったくわからない」が1.0%で、両者を合算した『ようすがわからない』人は36.7%となっている。

前回調査(平成14年)と比較すると、特に大きな差異はみられない。

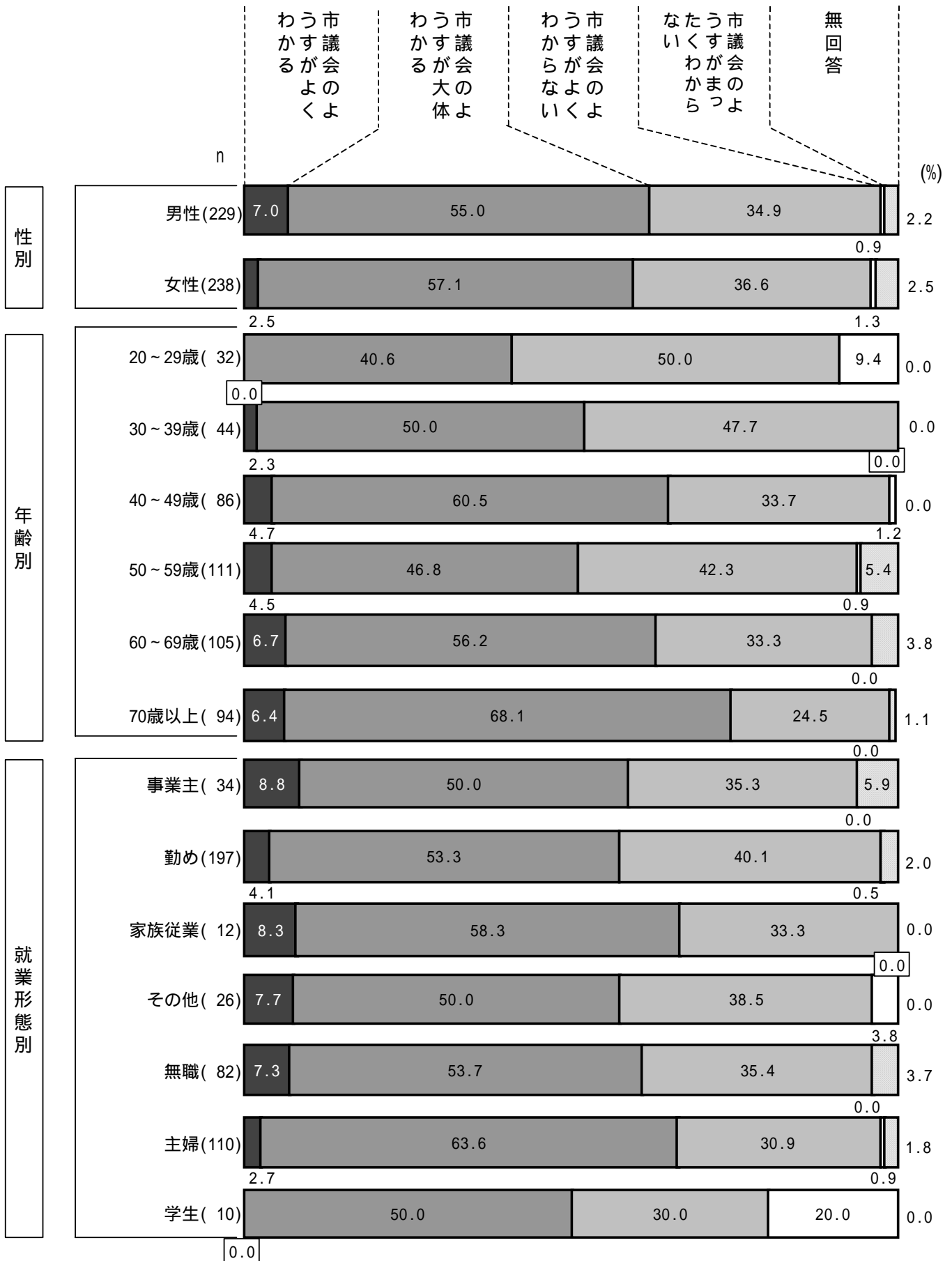
【性別・年齢別・就業形態別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

年齢別でみると、『ようすがわかる』人は、70歳以上が最も高くなっており、74.5%となっている。一方、20歳代では、『ようすがわからない』人が59.4%と最も高くなっている。

就業形態別でみると、「市議会のように大体わかる」は主婦が63.6%となっており、最も高くなっている。

< 図 7 - 1 2 : 性別・年齢別・就業形態別 >

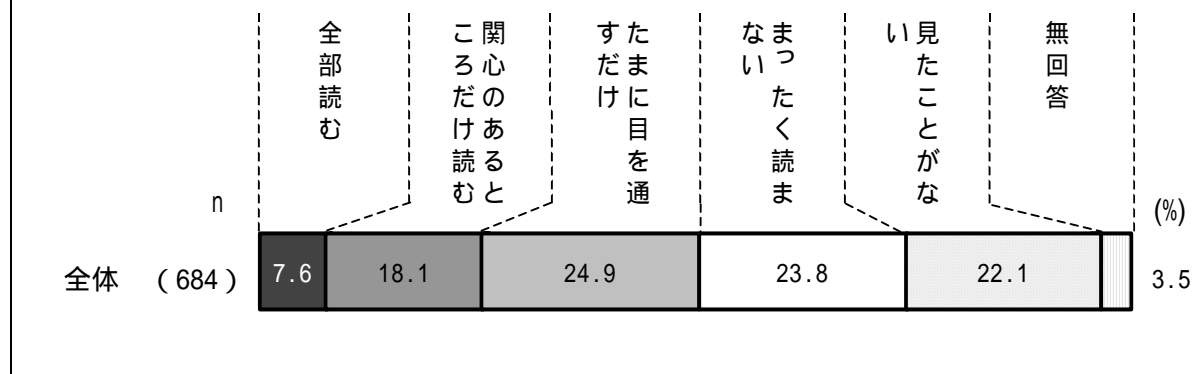


(4) 「教育委員会だよりきよせ」の閲読度

問15 教育委員会では「教育委員会だよりきよせ」を年2回、新聞折り込み等で皆さんのご家庭にお届けしていますが、あなたはどの程度お読みになっていますか。

[n = 684]

< 図7 - 13 : 「教育委員会だよりきよせ」の閲読度 >



【全体】

「教育委員会だよりきよせ」の閲読度では、「全部読む」が7.6%で、「関心のあるところだけ読む」が18.1%である。これら両者を合算すると、『随時読んでいる』人は25.7%となる。一方、「見たことがない」が22.1%、「まったく読まない」が23.8%となっており、両者を合算すると、『読んでいない』人は45.9%となっている。また、「たまたまに目を通すだけ」は24.9%となっている。

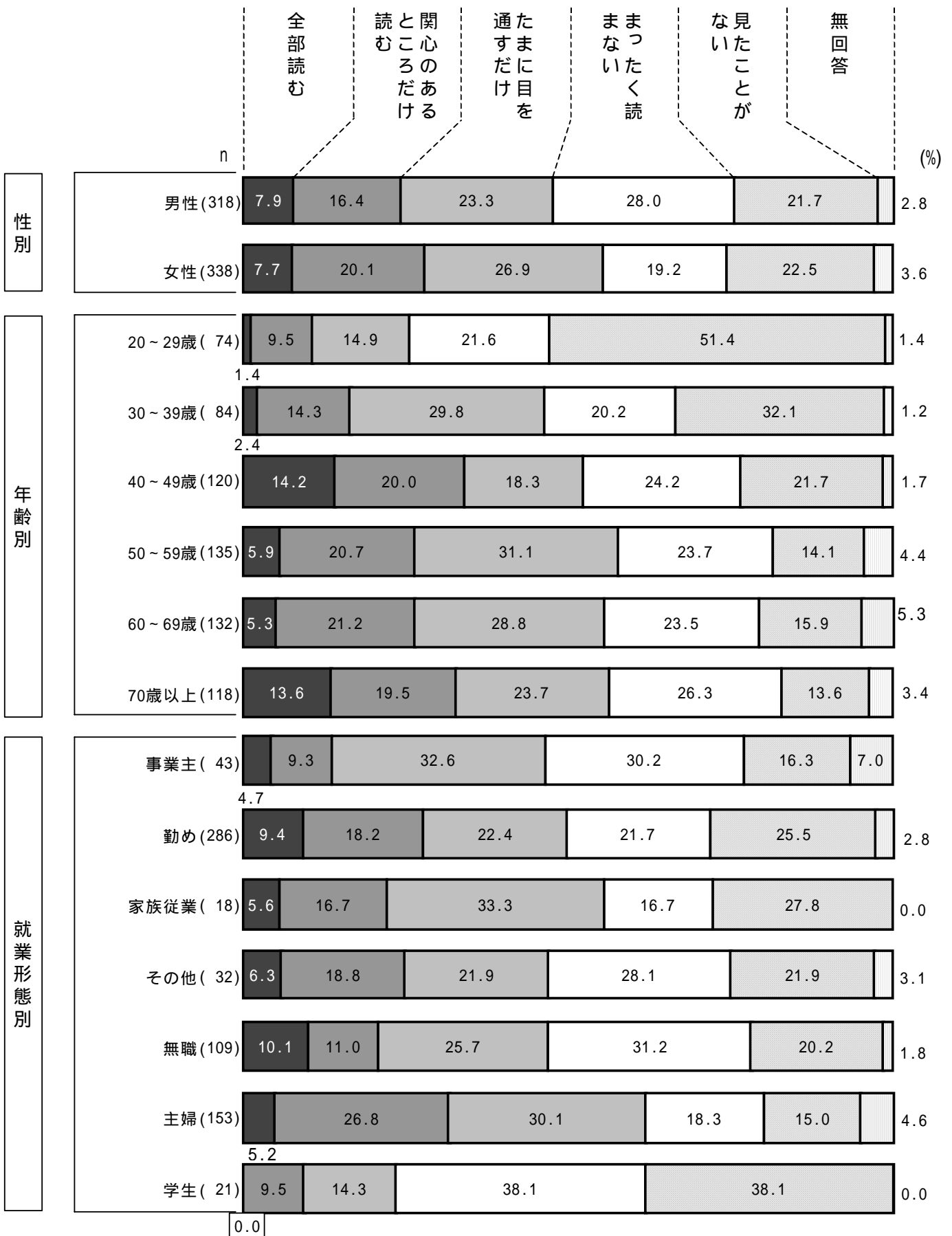
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「まったく読まない」が男性(28.0%)、女性(19.2%)となっており、男性が8.8ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「全部読む」は40歳代、70歳以上がそれぞれ14.2%、13.6%と他の年齢層と比較して高く、同様に『随時読んでいる』人も34.2%、33.1%と高くなっている。また、「見たことがない」は20歳代が51.4%と最も数値が高く、年齢が上がるほど漸減する傾向になっている。

就業形態別で見ると、「関心のあるところだけ読む」人は主婦が26.8%と他の就業形態に比べて高く、同様に『随時読んでいる』人も32.0%と最も高くなっている。

< 図 7 - 1 4 : 性別・年齢別・就業形態別 >

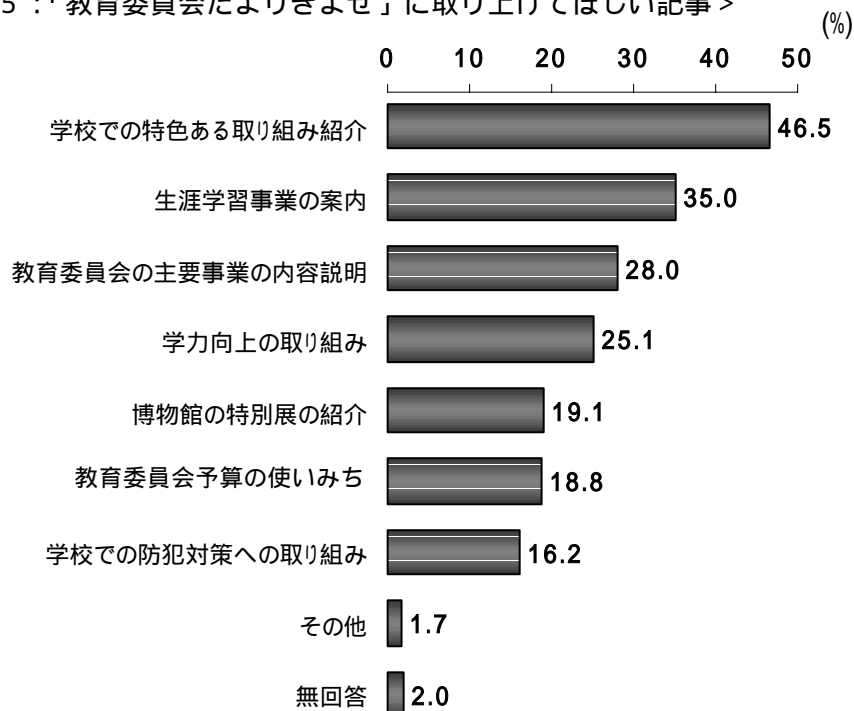


(4-1)「教育委員会だよりきよせ」に取り上げてほしい記事

SQ1 問15で「全部読む」、「関心のあるところだけ読む」、「たまに目を通すだけ」とお答えの方にうかがいます。「教育委員会だよりきよせ」に取り上げて欲しい記事はどのようなものですか、次の中から2つまでお答えください。

[n = 346]

<図7-15:「教育委員会だよりきよせ」に取り上げてほしい記事>



【全体】

「教育委員会だよりきよせ」に取り上げて欲しい記事では、「学校での特色ある取り組み紹介」が46.5%と最も高く、次いで、「生涯学習事業の案内」が35.0%、「教育委員会の主要事業の内容説明」が28.0%と続いている。

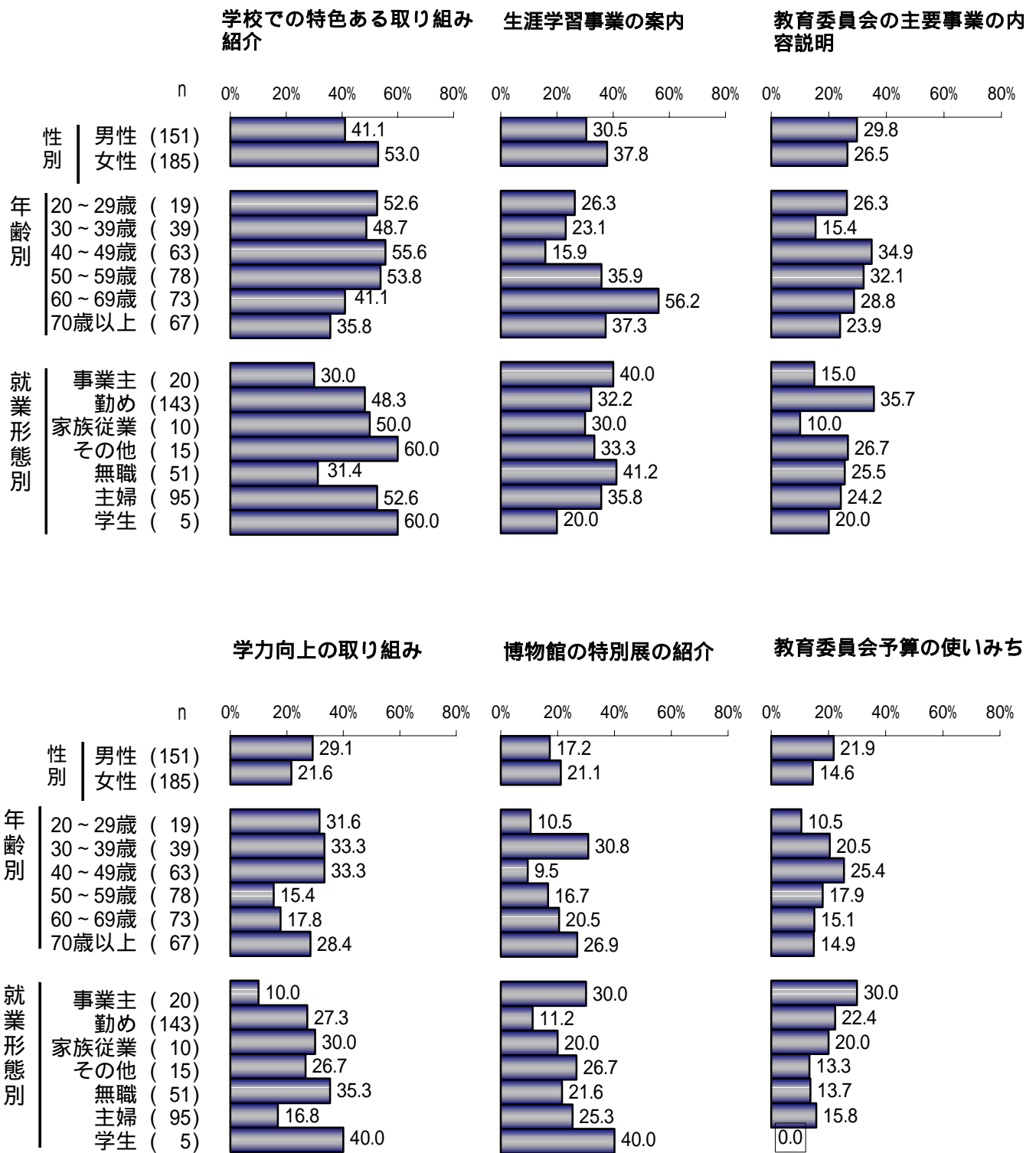
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「学力向上の取り組み」が男性(29.1%)、女性(21.6%)となっており、男性が7.5ポイント上回っている。また、「教育委員会予算の使いみち」が男性(21.9%)、女性(14.6%)となっており、男性が7.3ポイント上回っている。他方、「学校での特色ある取り組み紹介」は女性(53.0%)、男性(41.1%)となっており、女性が11.9ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「生涯学習事業の案内」は60歳代が最も高く56.2%となっている。

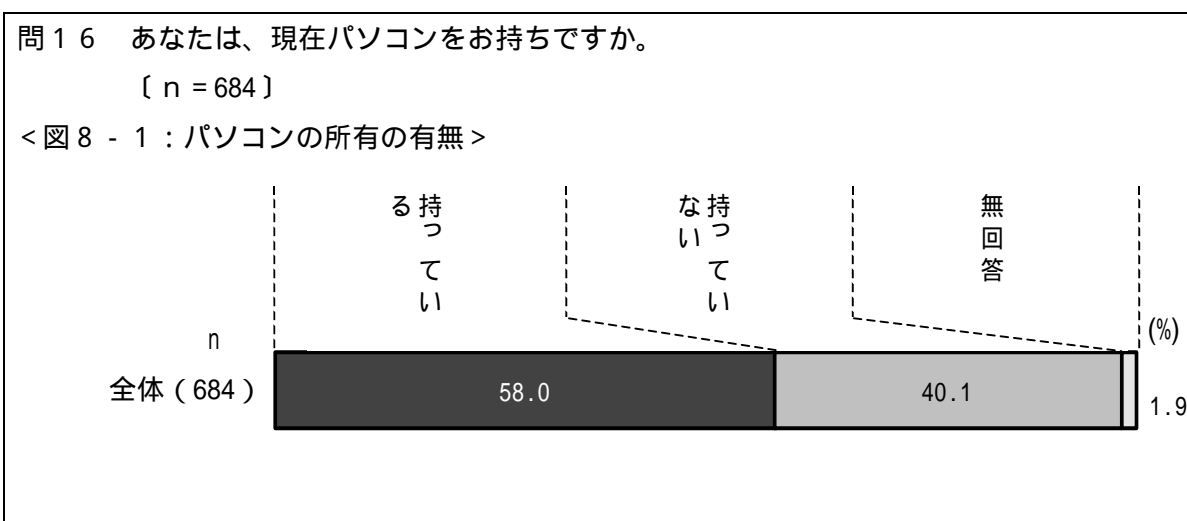
就業形態別で見ると、「教育委員会の主要事業の内容説明」は勤めが他の就業形態と比較して高く35.7%となっている。

< 図 7 - 1 6 : 性別・年齢別・就業形態別：上位 6 項目 >



8 インターネット環境

(1) パソコンの所有の有無



【全体】

パソコンの所有の有無では、「持っている」が58.0%で6割弱を占めている。一方、「持っていない」は40.1%となっている。

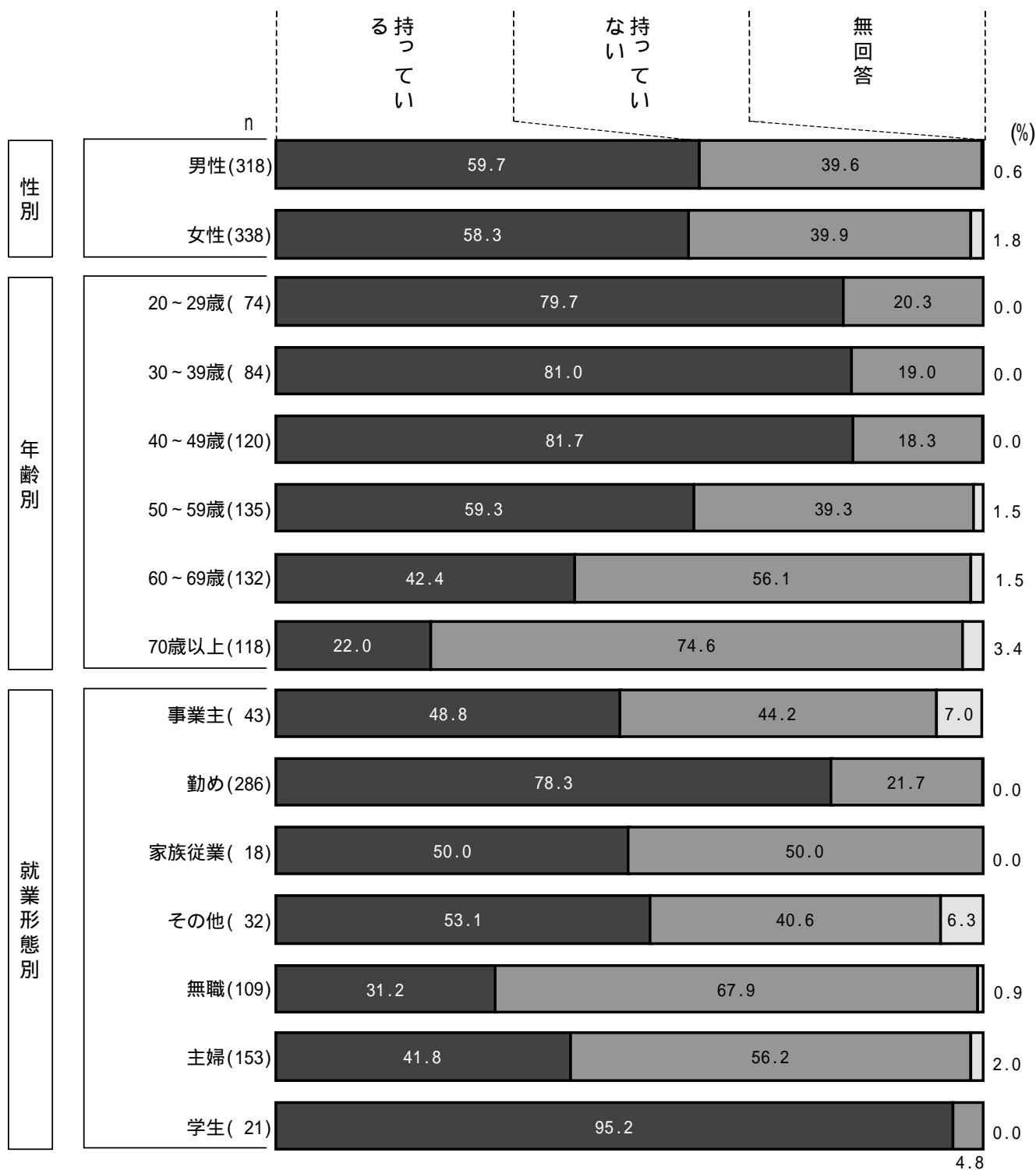
【性別・年齢別・就業形態別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

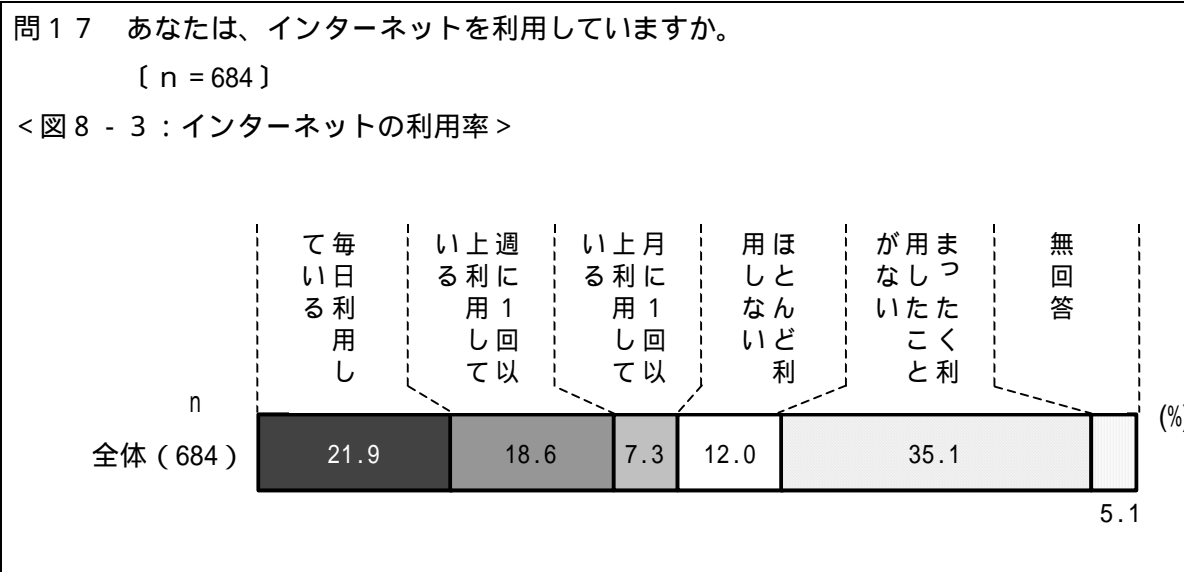
年齢別でみると、「持っている」は40歳代、30歳代、20歳代でそれぞれ81.7%、81.0%、79.7%と高い数値を示しているが、40歳代からは年齢が上がるほど減少する傾向にある。他方、「持っていない」は70歳以上が74.6%で最も高くなっている。

就業形態別でみると、「持っている」は学生が95.2%と最も高くなっており、次いで勤めが78.3%で続いている。

< 図 8 - 2 : 性別・年齢別・就業形態別 >



(2) インターネットの利用率



【全体】

インターネットの利用率では、「まったく利用したことがない」が35.1%と最も高く、次いで「毎日利用している」が21.9%、「週に1回以上利用している」が18.6%で続いている。

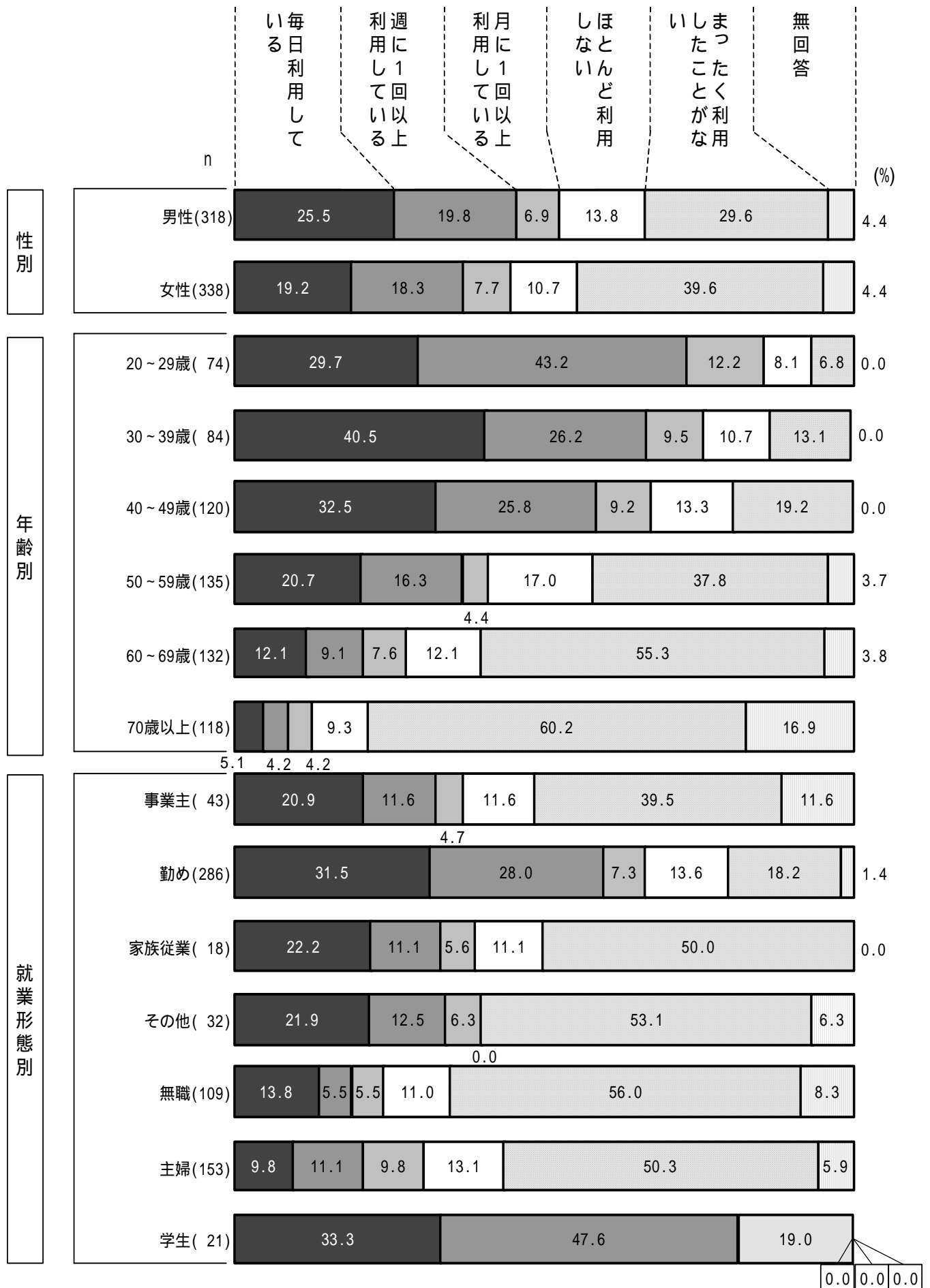
【性別・年齢別・就業形態別】

性別で見ると、「毎日利用している」が男性(25.5%)、女性(19.2%)となっており、男性が6.3ポイント上回っている。他方、「まったく利用したことがない」が女性(39.6%)、男性(29.6%)となっており、女性が10.0ポイント上回っている。

年齢別で見ると、「週に一回以上利用している」が20歳代で最も高く43.2%となっており、年齢が上がるほど漸減する傾向にある。他方、「まったく利用したことがない」が70歳以上で最も高く60.2%となっており、年齢が下がるほど漸減する傾向にある。

就業形態別で見ると、「毎日利用している」は学生及び勤めが他の就業形態より高くそれぞれ33.3%、31.5%となっている。また、「週に一回以上利用している」も学生及び勤めがそれぞれ47.6%、28.0%と高い数値になっている。他方、「まったく利用したことがない」は無職、家族従業、主婦、その他で50.0%を超えている。

< 図 8 - 4 : 性別・年齢別・就業形態別 >

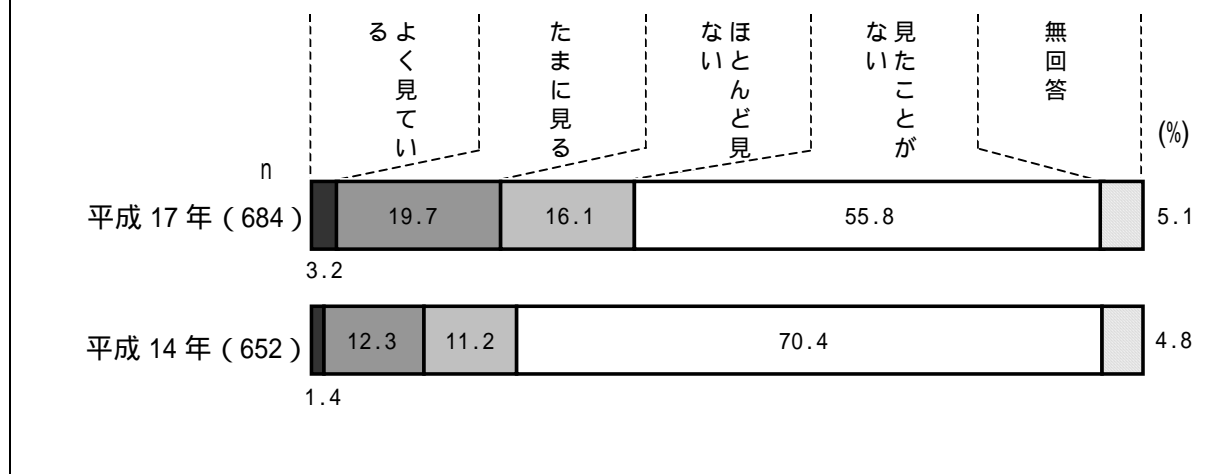


(3) 清瀬市ホームページ閲覧の頻度

問18 市では、清瀬市ホームページを開設していますが、あなたは、このホームページをご覧になったことがありますか。

{ n = 684 }

< 図8 - 5 : 清瀬市ホームページ閲覧の頻度：経年比較 >



【全体・経年比較】

清瀬市ホームページ閲覧の頻度は、「よく見ている」が3.2%で、「たまに見る」が19.7%となっており、両者を合算した『見ている』人は22.9%となっている。一方、「見たことがない」は55.8%となっている。

前回調査(平成14年)と比較すると、「見たことがない」が14.6ポイント減少している。一方、『見ている』人は9.2ポイント増加している。

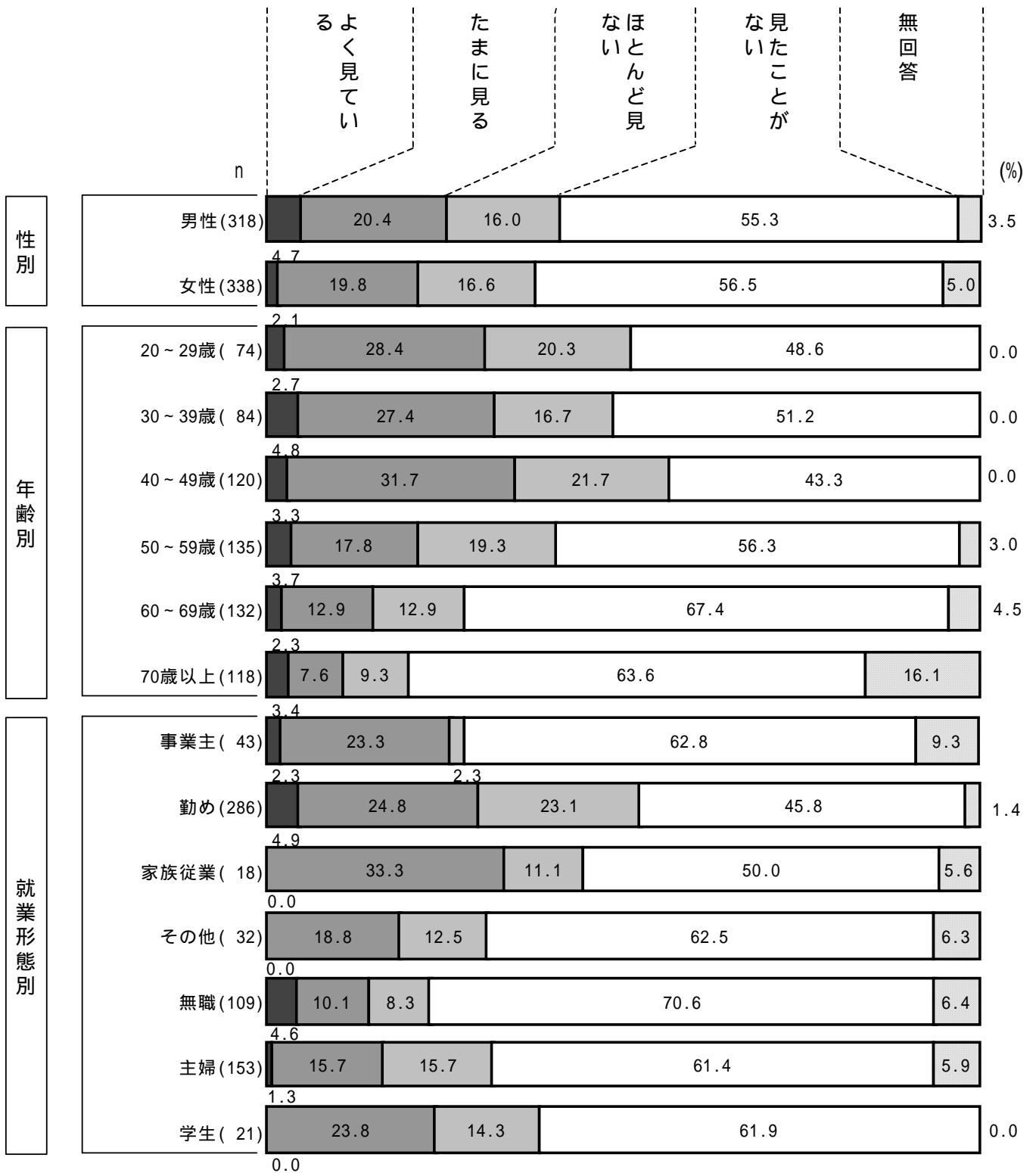
【性別・年齢別・就業形態別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

年齢別でみると、『見ている』人は40歳代で最も高く35.0%となっている。他方、「見たことがない」は60歳代、70歳以上で高くなっており、それぞれ67.4%、63.6%となっている。

就業形態別でみると、「たまに見る」が家族従業で最も高く33.3%となっており、「見たことがない」は無職で最も高く70.6%となっている。

< 図 8 - 6 : 性別・年齢別・就業形態別 >

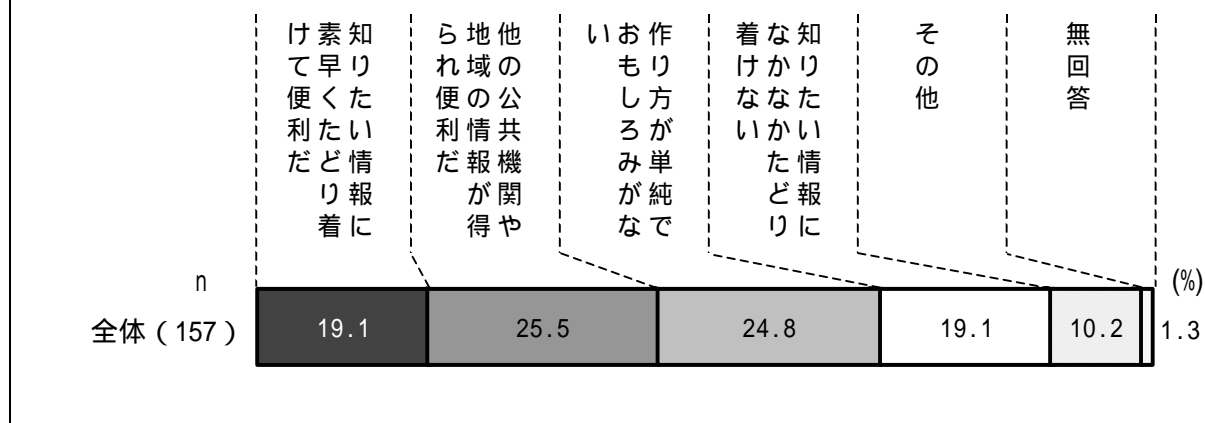


(3 - 1) 清瀬市ホームページの印象

SQ1 問18で「よく見ている」、「たまに見る」とお答えの方にはうかがいます。市のホームページの印象はいかがですか。

{ n = 157 }

< 図 8 - 7 : 清瀬市ホームページの印象 >



【全体】

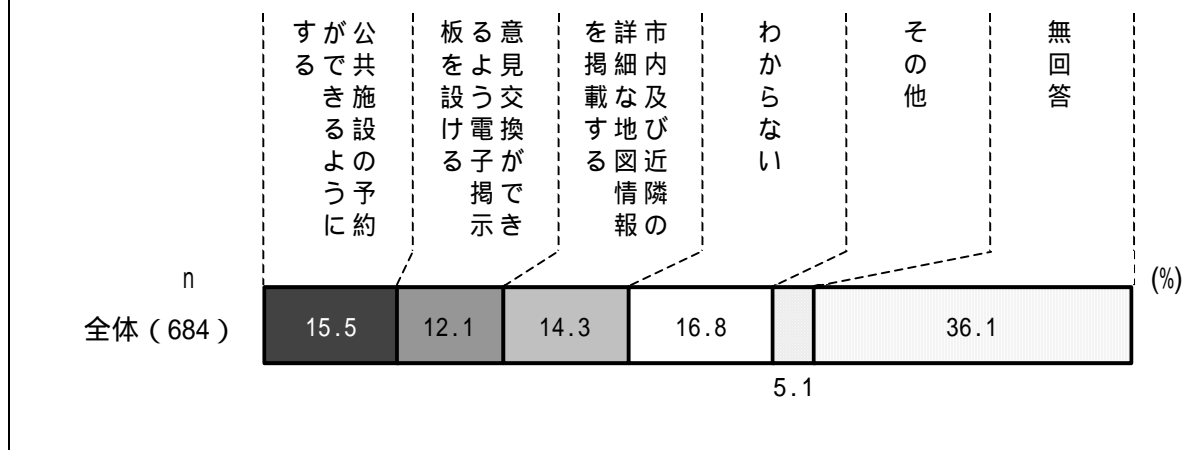
清瀬市のホームページの印象は、「他の公共機関や地域の情報が得られ便利だ」が25.5%と最も高く、次いで「作り方が単純でおもしろみがない」が24.8%、「知りたい情報に素早くたどり着けて便利だ」と「知りたい情報になかなかたどり着けない」がそれぞれ19.1%で続いている。

(3 - 2) 清瀬市ホームページに対する要望

S Q 2 今後、清瀬市ホームページにどのようなことを望みますか。

{ n = 684 }

< 図 8 - 8 : 清瀬市ホームページに対する要望 >



【全体】

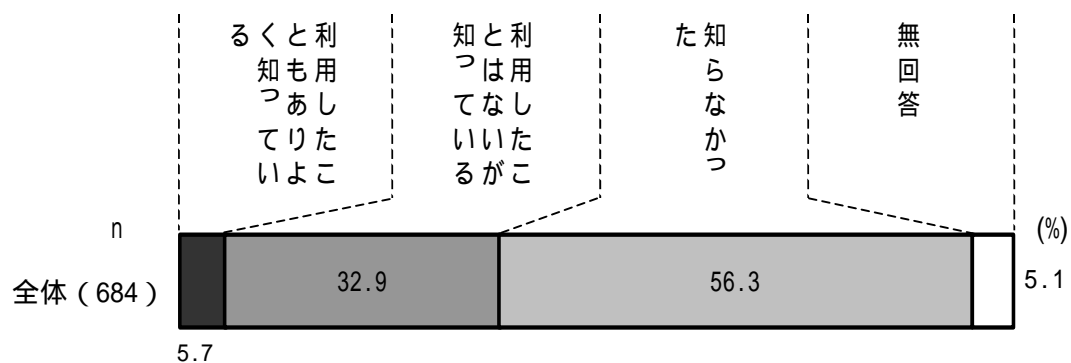
清瀬市ホームページに対する要望としては、「わからない」が16.8%と高くなっている。次いで「公共施設の予約ができるようにする」が15.5%、「市内及び近隣の詳細な地図情報を掲載する」が14.3%と続いている。

(4)「インターネットきよせ」の認知状況

問19 市では、市民の皆さんにご利用いただけるよう各公共施設に市や他市などのホームページが閲覧できる「インターネットきよせ」端末を設置していますがご存知でしたか。

{ n = 684 }

< 図8-9 : 「インターネットきよせ」の認知状況 >



【全体】

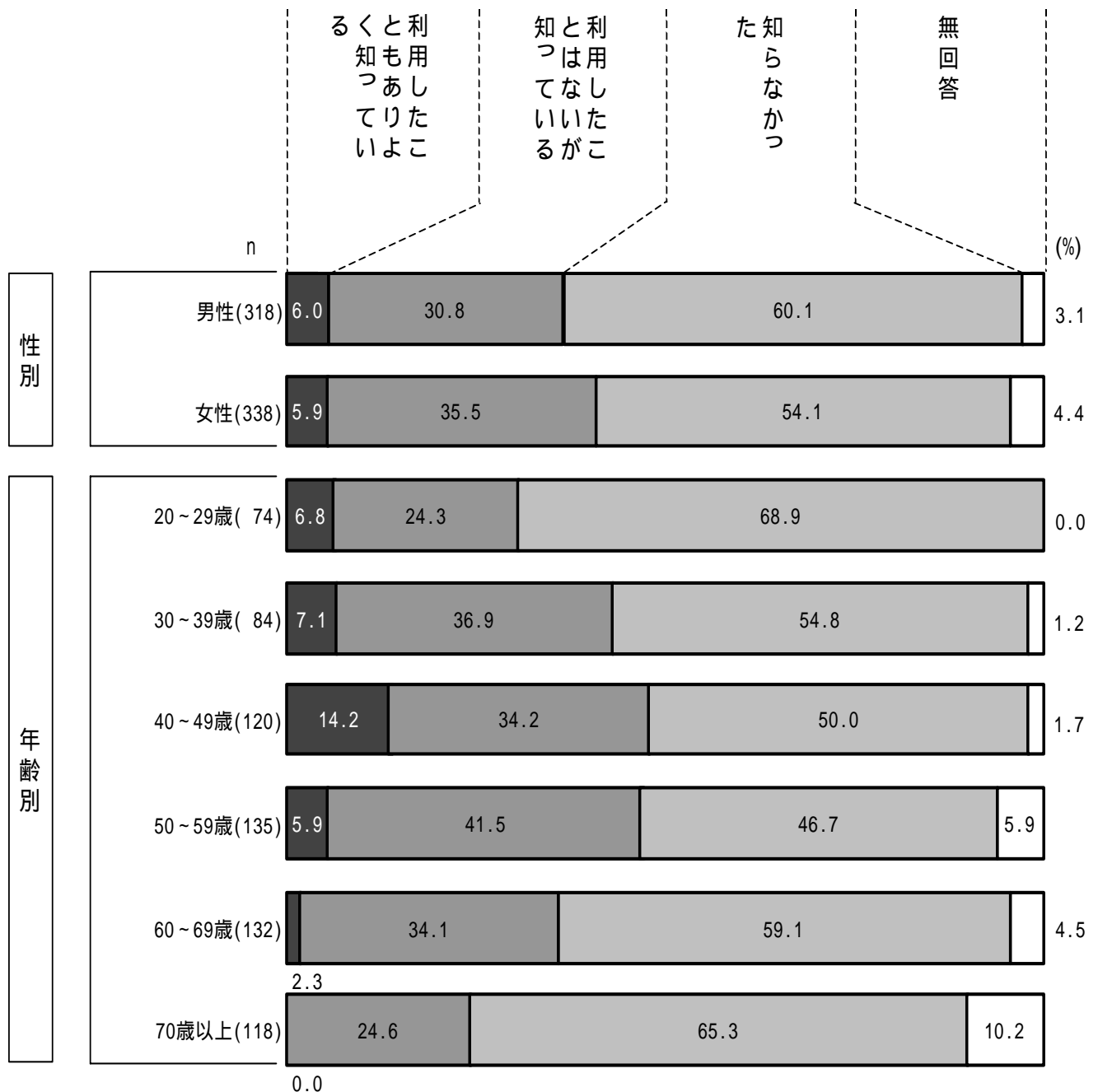
「インターネットきよせ」の認知状況については、「利用したこともありよく知っている」が5.7%と少数であり、「利用したことはないが知っている」の32.9%と合算すると、『知っている』人は38.6%になる。他方、「知らなかった」は56.3%となっている。

【性別・年齢別】

性別では、「知らなかった」が男性（60.1%）、女性（54.1%）となっており、男性が6.0ポイント上回っている。他方、「利用したことはないが知っている」が女性（35.5%）、男性（30.8%）となっており、女性が4.7ポイント上回っている。

年齢別でみると、『知っている』人は40歳代が48.4%と最も高く、次いで50歳代が47.4%と続いている。他方、「知らなかった」は20歳代（68.9%）、70歳以上（65.3%）が他の年齢層よりも高くなっている。

< 図8 - 10 : 性別・年齢別 >



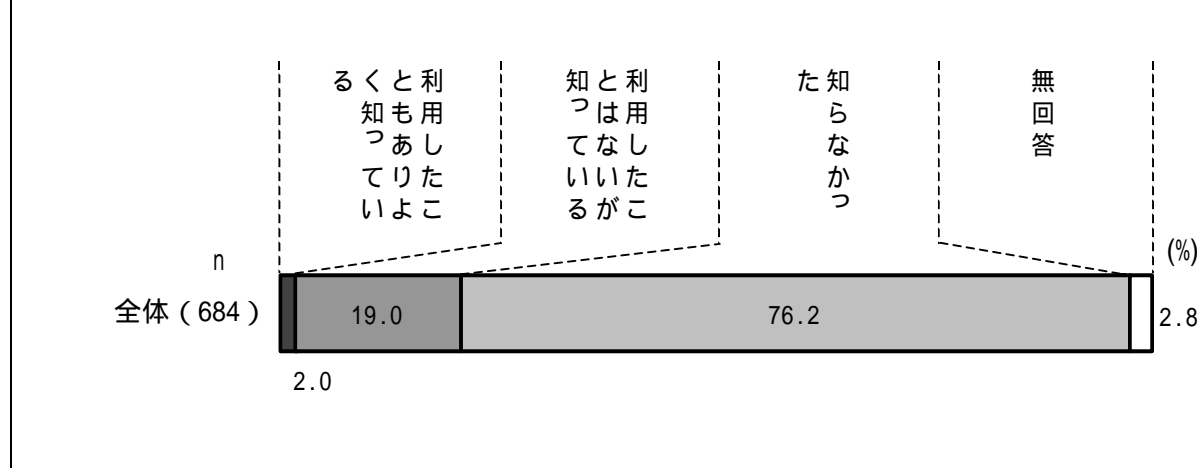
9 電子自治体

(1) 「テレビ窓口きよせ」の認知状況

問20 市では各公共施設に、市役所まで足を運ばなくてもテレビ画像を通して市役所職員に問合せと相談ができる「テレビ窓口きよせ」端末を設置していますがご存知でしたか。

[n = 684]

< 図9 - 1 : 「テレビ窓口きよせ」の認知状況 >



【全体】

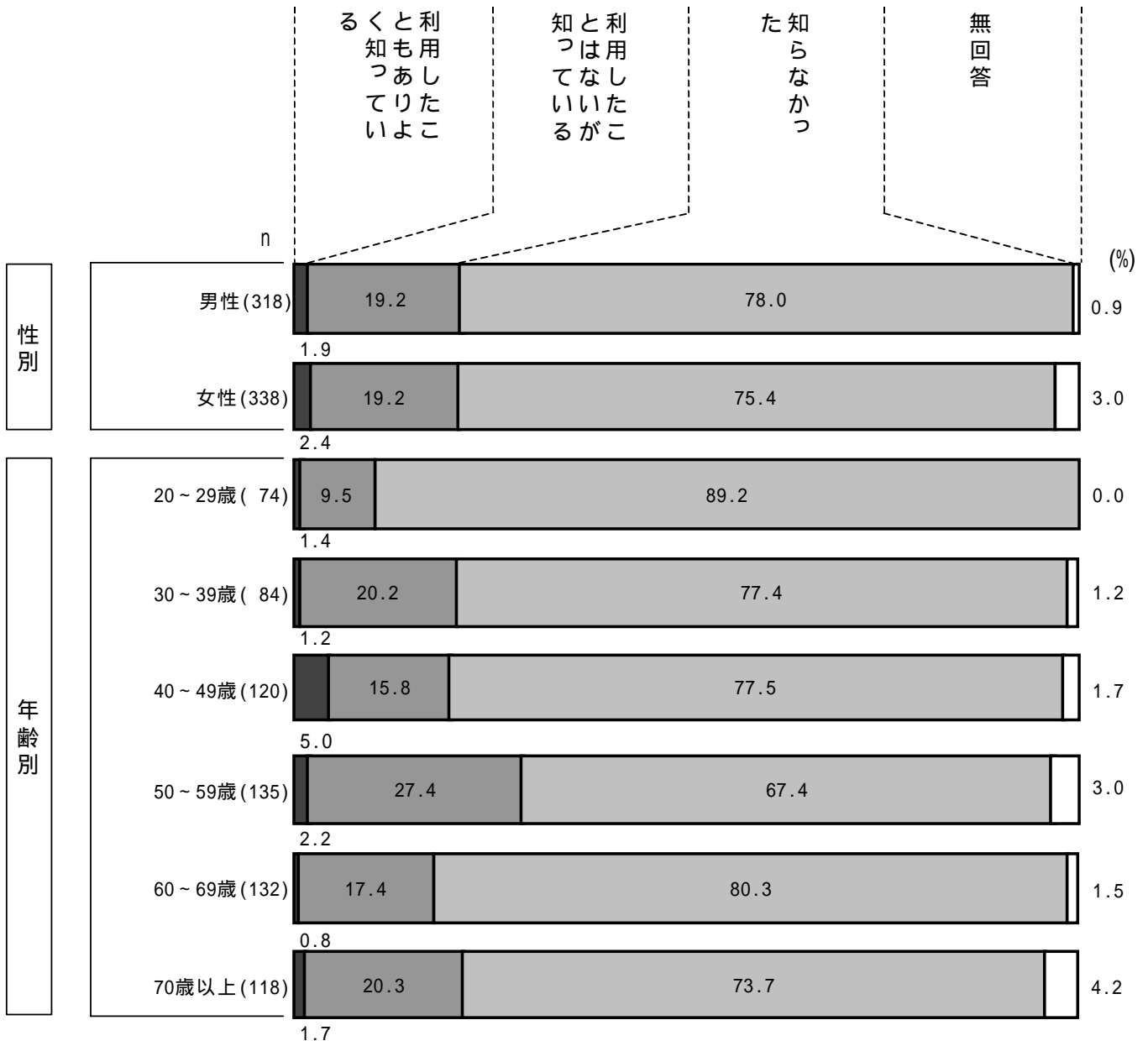
「テレビ窓口きよせ」の認知状況については、「利用したこともありよく知っている」が 2.0%と少数であり、「利用したことはないが知っている」の 19.0%と合算すると、『知っている』人は 21.0%になる。他方、「知らなかった」は 76.2%となっている。

【性別・年齢別】

性別では、特に大きな差異はみられない。

年齢別で見ると、「利用したことはないが知っている」は50歳代が27.4%と他の年齢層より高くなっている。また、「知らなかった」は20歳代が89.2%と最も高く、いずれの年齢層においても6割を超えている。

< 図9 - 2 : 性別・年齢別 >

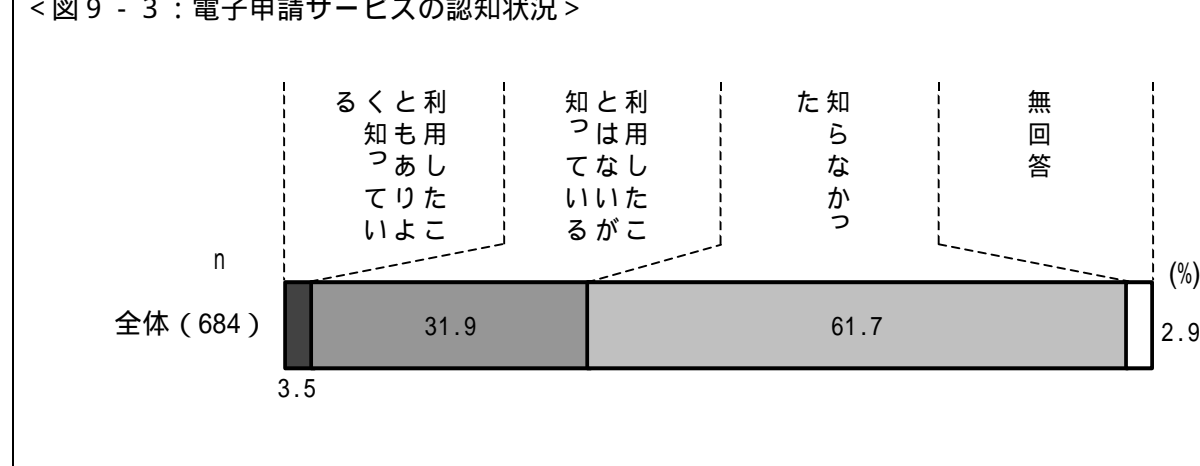


(2) 電子申請サービスの認知状況

問2 1 市では、住民票の写しや税務の諸証明などの交付申請をインターネットからできる電子申請サービスを開始していますが、各公共施設で夜9時まで受け取りが可能なことをご存知でしたか。

{ n = 684 }

< 図9 - 3 : 電子申請サービスの認知状況 >



【全体】

電子申請サービスの認知状況については、「利用したこともありよく知っている」が 3.5%と少数であり、「利用したことはないが知っている」の 31.9%と合算すると、『知っている』人は 35.4%になる。他方、「知らなかった」は 61.7%となっている。

【性別・年齢別】

性別でみると、「利用したことはないが知っている」が男性（35.8%）、女性（29.3%）となっており、男性が6.5ポイント上回っている。他方、「知らなかった」が女性（64.8%）、男性（58.8%）となっており、女性が6.0ポイント上回っている。

年齢別でみると、「利用したことはないが知っている」は60歳代が40.9%と他の年齢層より高くなっている。また、「知らなかった」はいずれの年齢層においても5割を超えている。

< 図9 - 4 : 性別・年齢別 >

